千葉大学 ぬのはな 同窓会報

編集　千葉大学医学部
　　ぬのはな同窓会
　　報　学生編集部
発行者　山崎　寛一
千葉市亥鼻町313番地

千葉大学長選挙
谷川学長が再任

千葉大学第五代学長選挙は、一月三十一日、二月一日の両日に投票が行なわれ、谷川久治学長が再選された。谷川学長は、昭和三十七年三月に第四代千葉大学長に就任し本年三月一日に四年の任期を終え、今回の再選によりさらに二年間の任期で昭和四十三年三月一日まで引続き学長を務めることになった。

谷川学長

一月五日の選挙公示後、各学部から谷川久治、小林政一、長友治郎吉、吉武好孝、芳野英昌、和達清夫、辻井静二、林四郎、望月衛、吉田富三の十氏が候補者として千葉大学協議会へ推薦された。このうち次の五氏が学長候補適任者として、一月二十七日公示された。谷川久治現学長（六四）、辻井静二工学部長兼短大部主事（五九）長友治郎吉文理学部教授（五六）吉田富三癌研究所長（六二）、芳野英昌教育学部長（六一）

第一回投票は一月三十一日午前十時より行なわれ、過半数得票者がなく、同日午後第二回投票が行なわれた。候補者の各回の得票数は次の通り。

▽谷川　久治　一五七
▽辻井　静二　一六
▽長友治郎吉　一一
　　六四
　　第一回
▽谷川　久治　一七
▽辻井　静二　五〇
▽長友治郎吉　一一
　　六八
　　第二回
▽吉田　富三　四四　三七
▽芳野　英昌　六四　六〇

さらに翌二月一日の上位得票者二名に対する第三回投票により

▽谷川　久治　二二三
▽長友治郎吉　一三一
▽無効　一七

となり、同日谷川氏の当選が公示された。＝関係記事五、六面に

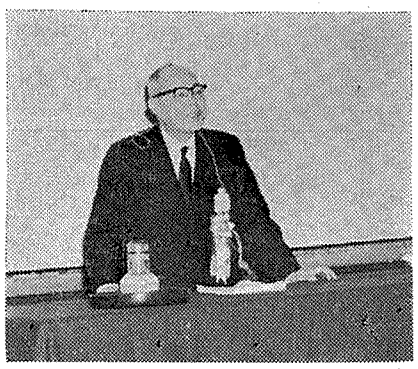
佐藤教授（歯口科）
――停年退官――
最終講義開かる

二月二十一日、午後三時半より病院屋階講堂に於て、佐藤伊吉教授（歯口科）の最終講義が「顎骨骨折について」と題して開かれた。会場には鈴木五郎同窓会長をはじめ教授、学生等多数が出席した。講義は、スライドによる臨床例の紹介の形式で、理解し易く、またユーモアを混じえて進められ、会場は、終始なごやかな雰囲気が漂い、先生の自信溢れる講義に特に学生達は、強く胸を打たれた。特に強調されたことは、顎骨骨折の際は出来るだけ早く専門医へ送って欲しいということであった。

最後に、今後とも歯口科教室へ暖い御支援をくれぐれもお願いしますと結ばれた。

佐藤伊吉教授は、大正十二年千葉医専を卒業、当時、高橋、瀬尾両教授指導の一般外科から歯科口腔外科の業務を命ぜられて大正十四年中村平蔵専任講師（現東京医科歯科大名誉教授）の助手として外科と歯科口腔外科を兼務。大正十五年日本大学口腔外科講師として転任。昭和二年千葉大学歯科口腔外科の医局嘱託として帰校。昭和六年講師に昇任。昭和十二年から二十年まで応召され軍医として勤務。その間の研究業績を『顎顔面損傷の外科』として著された。これは太平洋戦争衛生史として重大意義を有するものとされている。昭和二十四年助教授に昇任。昭和二十六年岡山での第六回日本歯科口腔科学会で『顎形成について』特別講演をされ、昭和二十七年には第七回日本歯科口腔科学会長として千葉で学会を開催。昭和三十一年本学教授に昇任された。

教室の研究の主題目には『骨移植の研究』、『顎口腔の感染に対する好気性ならびに嫌気性菌叢』があり、同教授は、昭和三十一年、三十二年に埼玉産雑系マウスに自然発生した原発癌、佐藤一号、二号の累代移植に成功、現在も佐藤癌に関する種々の研究は続行されている。今後の記念行事予定は、四月二十九日午後一時より医学部記念講堂に於て『佐藤伊吉教授退官記念式典』と、それに引き続いて『祝賀会』が、行われる。


最終講義での佐藤教授

牧野（二外）永野（一解）白井（三解）
三助教授決定

牧野博安講師（第二外科）、永野俊雄講師（第二解剖）、白井敏雄講師（第二解剖）はそれぞれ第二外科、第一解剖、第三解剖助教授に就任した。

牧野助教授

牧野助教授略歴

昭和二十五年本学卒業後、二十九年本学第二外科教室副手に就任、三十二年カンサス州市大学脳神経外科医局員、帰国後三十七年本学第二外科学教室講師に就任し現在に至る。主に脳神経外科を専門とし、頭部外傷に対する脳神経外科的治療法等に関する研究がある。

永野助教授

永野助教授略歴

昭和三十年本学卒業後、三十四年ワシントン大学に赴き、三十六年帰国、三十七年本学解剖学講師に就任し現在に至る。電子顕微鏡による人間の生殖細胞の微細構造に関する研究を主としている。

白井助教授

白井助教授略歴

昭和三十一年本学卒業後、群馬大学医学部附属内分泌研究施設助手に就任、三十六年本学解剖学講師に就任し現在に至る。組織発生に対する放射性リンの影響の研究、最近では中枢神経系の器官発生に関する実験発生学的な研究がある。

論説
インターン問題

三輪　清三

インターン、すなわち実地修練についての問題は、ここ数年近くいろいろと論議され、殊に昨年あたりからは深刻になってきている。これは現在のインターン制度なるものがこのままでは不適当であるという考え方が、実地修練をやる学生の間からも、また大学すなわち教育者の側からもおこり、担当している厚生省でも、また医師会でも、このままでは具合が悪いから何とかすっきりとした制度にしたいと念願しておる現状である。

そもそもインターン制度というものは、立派な医師をつくるという目的なのである。いま各方面でいろいろと論議されているが、この立派な医師をつくるという目的では皆一致していると思う。つまり大学を卒業しただけでは直ちに臨床医家としては不充分であるから卒業後つづいて実地修練を研修することの必要性はみんな認めているわけである。ところで、どういう風にやったら最もよろしいだろうかというと、そこにいろいろと問題が起ってくる。現在大学側でも医学部長会議の代表や病院長会議の代表もしばしば会議をやり、いろいろ論議し主張すべきことを話し合っているが、現在のところ厚生省の案とはまだ一致をみていない。結論的にいうと、教育者側の主張は、実地修練の実施は自主的（自発的）且道義的にやり、それは教育機関の責任において指導するというのに対し、厚生省側では、義務的に強制的にやらせるという、この点だけが一致しないようである。あとは一致している。

終戦後我国で行われてきたインターン制度をみると、学生教育そのものにも幾多改善を加えなければならないような状態に外国の制度をそのまま取入れて来たことにも無理があるのではなかろうか。われわれ古い人間はとかく昔の制度にあこがれ、国家試験もなく大学卒業と同時に医師免許証を下付され、何科でもやれたのである。その頃でも卒業後直ちに独立して開業するという者は極めて少数で殆どが大学の医局に残って勉強するなり、あるいは他の先輩のいる病院で修業してきたのが実状であった。現在、もしインターン制度が廃止されたとした場合、卒業後直ちに一人で開業医となる者は殆どないであろう。そこで実地修練を義務づけてやらせる方法も一つの案ではあろうが、その際修練生に対する経済的援助ということも問題となるであろう。しかしこの問題は実施がなかなかむずかしいと聞いている。本年は一億余万円の費用が出されるとのことであるが、これは実地修練担当病院の設備改善には或程度役立つかもしれないが、実地修練生に対しては経済的援助とはならない額であろう（将来うんと増額されれば別であろうが）

そこで、教育者側の考えているような実地修練は自主的道義的にやるという方が、ただ二年義務的にやるという方よりも、より立派な実力ある医師をつくることができるのではなかろうか。さきに述べたようなインターン生に経済補助を与えるとなると、また無給副手の問題も考えなくてはならない。本年度の本学の卒業生は、実績のあがるような修練を熱望しているようなので、この点については全く同感であり、何とかその希望をかなえてやりたいと念願している。そして現行のインターン制度は廃止して、改善したいという意見はみんな一致しているわけなので、何とかわが国にそうした制度が確立し、学生も安心して勉強できるようになることを念願してやまない。

【本学附属病院長、第一内科学教授】

人事異動

昇任
岩崎洋治　第二外科講師

採用
倉持正昭　小児科助手
露崎輝夫　第二内科助手
飯塚正章　農山村医研助手
黒岩璋光　麻酔科助手
山下泰徳　第二外科助手

復職
戸川　清　耳鼻咽喉科助手（外国出張より）

転任
村松　準　第二内科助手（長野県上田市国立東信病院より）

出向
野口徹男（第二内科助手）長野県上田市国立東信病院へ

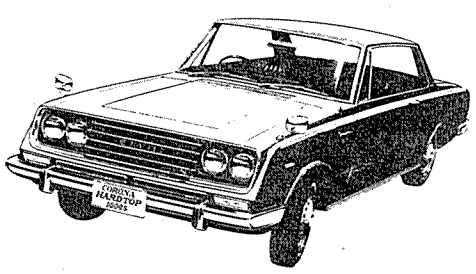
休職
赤星至郎（耳鼻咽喉科助手）外国出張のため
小高通夫（第二外科助手）外国出張中期間更新
本宮　建（小児科助手）外国出張中

辞職
和田康敬（第二内科助手）栃木県農協石橋病院へ
隆　克朗（農山村医研助手）
大西盛光（第二外科講師）川鉄病院へ
衣川淵水（衛生学助教授）川鉄病院へ
佐伯陳哉（眼科助手）川鉄病院へ
上田健夫（歯口科助手）川鉄病院へ

ごぞうろっぷ

この新聞が会員諸兄の手に渡る頃、桜の花は咲きそろい、春たけなわであろう。大学の庭のあちこちに植えられた桜が美しく枝をたれ連絡道路沿いの桜並木も新入生を迎えんとその絢爛さを競う▼というのがつい二、三年前までのここ千葉大学医学部であったのだが、記念講堂が基礎校舎の裏手に完成してからは、新入生はこの眺めよい連絡道路を歩いて入学式場に向うあの感慨を味わうことができなくなった。学生の生活態度が大きく変ってきた一因であろうか▼新入生には縁遠くなった連絡道路のむこうでは、薬学部の西千葉への移転が準備され、新病院建設が計画されている。四十一年度に調査、設計を終え、四十二年度には着工したい、と再任の谷川学長は語る▼最近の医学の進歩に追い付かず、息の切れかかっているのが今の病院である。何としてもこの計画が早期に実現され、さらに残された基礎校舎の整備もされんことを我々は願うのである▼医学部が、来たる一世紀目のその日には古い伝統を足場に新しい出発に踏み出している▼それにつけてもこの「ぬのはな同窓会」が一層の発展を見、日本の、いや世界の医学をリードするほどになっているべきものと思うのである。

和洋新刊
医薬学書　看護学書　助産婦学書　専門販売
（千大医学部学生自治会厚生部特約店）
メジカル書院
（学校・病院・図書館・御用達）
千葉市亥鼻町二八（病院坂）
千葉大学医学部西門前
電話千葉（22）七九四三

コロナ四冠王に輝く！
○生産第1位　○輸出最高記録
○販売第1位　○人気投票第1位
真価を発揮する
トヨペット コロナ

千葉トヨペット株式会社
千葉市稲毛海岸1の23　TEL（41）1181（大代表）
営業所
中央営業所　TEL（41）1181（大代表）
都町出張所　TEL（22）9276（代表）
市川営業所　TEL（35）4111（代表）
船橋出張所　TEL（22）1201～2
松戸営業所　TEL（62）9171（代表）
柏出張所　TEL、柏（67）1234
木更津営業所　TEL　4461～3
八日市場営業所　TEL　508・832
佐原営業所　TEL　5115（代表）
銚子営業所　TEL　2511（代表）
茂原営業所　TEL　4581（代表）

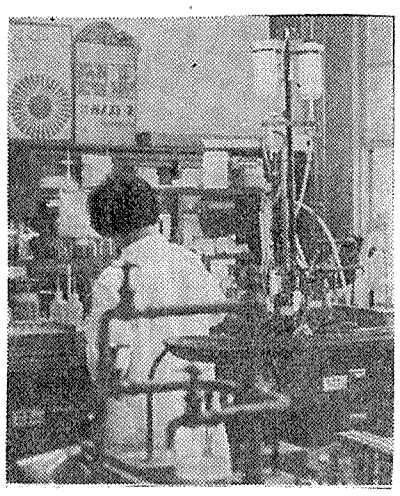
中央検査部設置決る

業務開始はなお先き

かねてから懸案の附属病院中央検査部の設置が、四十一年度予算で認められ、三輪病院長を中心とした中央検査部設立準備委員会（六人）はその具体化を進めており、助教授一、助手二、検査技師等の職員十八人を当てる予定である。

現在まで、病院内の検査の能率化のため、一内、二内、小児科が独自に合同検査室を作っていたが、他科では各科分散で検査を行っていた。今回決った中央検査部は現病院内がすでに手一杯の状態のため、さし当り内科合同検査室で各科共通の検査を行い、その他の各科検査室ではその科独自の検査を行なう予定である。

また病院内の一部をさらに拡張して検査室を作ることも考えられており、いずれにせよ新病院建設に際して完全なものにする計画である。



現在までの合同検査室

検査業務の開始は、準備期間が必要のため、早くて七月頃となる模様である。

米国より研究助成金を

米国のDepartment of health Education and Welfare National institute of health は毎年各国の医学、生物学関係研究者に研究助成金を与えているが、本学では、永野俊雄助教授（第一解剖）、広田和俊講師（第二外科）、藤原喜久夫教授（腐敗研）、相磯和嘉教授（腐敗研）の各氏が受けており、永野助教授は〝人間の生殖細胞の微細構造に関する研究〟に六十三年～六十五年の三年間に千二百万六千六百円、広田講師は〝胃の同種移植に関する研究〟に四十年～四十一年の一年間に九十万円、藤原、相磯教授は〝腸炎ビブリオによる食中毒の病原学的及び疫学的研究〟に三十八年～三十九年に三百六十万、三十九年～四十年に二百五十二万円を受けた。尚、三義彰浦教授（生化学）も昨年まで受けていた。

脳機能研究施設も新設

長年の努力認められる

かねてから文部省に正式設置を申請していた脳機能研究施設は、四十一年度に認可される運びとなった。

脳研は昭和三十四年に解剖、生理、薬理の各教室が中心となって創立され、その後、臨床、基礎部門の多数の教室の参加があり、未認可の施設でありながらも、全国七大学に既設の脳研施設に劣らない設備と研究内容を誇っていた。解剖生理、薬理、臨床部門が申請していたが認可されたのは、全国初の薬理系部門である「向神経薬研究部」で、教授一、助教授一、助手二、その他二名のスタッフで、中枢神経系作用薬の総合的研究を進めていく。今回認可されなかった「解剖生理研究部」、「臨床医学研究部」の二部門も、一年おきぐらいに認可の予定で、将来は脳外科などの臨床系を有する研究所にまで発展させていく計画がある。

人事往来

▼久我哲朗講師（薬理学）ドイツ、ゲッチンゲン大学へ三十八年九月二十七日から四十一年九月二十七日まで留学

▼戸川清助手（耳鼻咽喉科）アメリカ、ワシントン大学へ三十九年一月八日から四十一年一月三日まで留学

▼降矢鬱助教授（生化学）アメリカ、スローンケタリング癌研究所へ研究の為渡米中

▼手塚統夫助手（生化学）イギリス、バーミンガム大学で一半年の研究を終え帰国。

▼須永清助手（生化学）アメリカ、スローンケタリング癌研究所へ四十一年二月十日から四十二年二月九日まで留学

腸チフス事件

意外な方向へ

今後の病院管理に教訓

静岡県三島市南本町社会保険三島病院（宮崎五郎院長）に集団チフスが発生し、三十日までに患者四十一名に及んだ。二月二十日敗血症（ワイル病の疑い）で死亡した同病院副院長を解剖したところ、腸チフス菌が検出され、同副院長の看護に当っていた内科主任看護婦が同月二十八日発病したことから本学一内から応援の医師を派遣したが、その時外来で腸チフスと思われるのを診て、伝染病隔離病棟におくりこんだ。

その後静岡県御殿場市、同駿東郡小山町、神奈川県小田原市（いずれも腸内細菌を研究しているS医師の立ち寄ったところ）でも腸チフスが集団発生していたことが判明、各地とも家族が同時に罹患するという傾向をもっていたことから、厚生省は特定の人物が濃厚な腸チフス菌を一時に持ち込んだものでないかと疑った。昨年七月末に一内から三島病院に派遣されたS（某私立大卒）K（本学卒）両医師を検査するように三月七日厚生省から依頼された。その結果K医師は増菌で（+）。S医師は（－）であったが間歇的保菌者の疑いで更に検査調べるため、本人の協力を要請し、葛城病院に隔離された。

三月十七日以降に、一内看護婦一名、看護助手二名、用務員一名に、保菌者・患者が続出したがこれらの患者は、昨年九月にも同様の症状を呈しており、病後保菌者および再発と考えられている。

一内では、対策処置として、三月二十日から二十八日まで外来受付を中止して休診とし、また（1）一内への飲食物持込禁止、一内関係者の外食禁止、（2）検査結果が判明するまで医局員の出張診療中止、（3）看護婦、賄い婦などの飲食物扱い者の血液検査、検便の実施、（4）医学部内職員等の予防接種実施などを行なった。外来休診処置後も、患者がふえる傾向にあるため、三月二十九日病院衛生委員会（院長諮問機関で委員長は久保政次教授）は、一内閉鎖をさらに四月二日まで継続することを決定し、また、検便・血液検査で陰性と判定された医師の出張診療は、三十日にその中止措置が解除された。

なお、七月末派遣されたK医師は八月上旬発病（敗血症と診断）したが、その際三島保健所に〝三島病院では腸チフス患者を隠匿している〟との怪電話が再三あった。九月に本学で十三名のチフス患者がでたときも、K医師の検査胆汁の試験管から菓子に菌がばらまかれ発病したとの密告や、廃棄処分していたことになっていた集団発生の腸チフス菌が、その後国立予防衛生研究所へこの菌が公文書を通さないで、手渡されていたことなど、疑惑をもたれている。

三輪清三病院長辞任

後任に鈴木次郎教授

三輪清三病院長（第一内科教授）は三月二十四日、病院教授会で、辞意を表明し、教授会はこれを受理した。三輪教授は、昭和三十八年十月一日付で、病院長に就任し任期満了後も再選され、二年五カ月の期間を以って退任した。なおこの辞任は一内腸チフス事件とは関係なく、今般改正された病院長選考基準に従ったもの。

同病院長の辞任にもとづき、教授会は二十八日開かれ後任として鈴木次郎整形外科学教授を選出した。

学内短評

▼腸チフス続発。昨年九月のチフス発生後の処置が手ぬるかったとの批判に、強い否定の言を聞けないのが無念。病院の衛生管理にも医師自身の衛生管理にも問題がありそうだ。▼医局員や学生が白衣姿のままで学外の食堂、学内の食堂へ行く。白衣は名ばかりで、灰衣、黒衣が見られる時もある。医師は色感がないのではないかと疑う時もある。▼その医師の足もとを見れば、街を歩いたサンダルのままで病院内を潤歩する。▼少しミクロで見れば、病院内は不潔きわまりない。患者用スリッパや待合い室の椅子も、本来毎日消毒されてもよいはず。▼学内を医局員、学生共にきたなくしているのではないだろうか。

教室めぐり ㉗ 衛生学教室の巻

この教室は田波教授で三代目になる。明治十七年以来衛生学は生理学、薬物学とともに講述されたが、大正十二年に現在のように、独立の教室として設立された。初代衛生学教授として、東京帝国大学から来任した松村博士が迎えられ、衛生学とともに、細菌学も担当した。大正十四年に細菌学教室が新設された。松村教授の下で、山口は満州を始め銚子などのコレラ流行の防遏に従事し、多くのスタムを分離してこれを研究し、落合は病原大腸菌について報告したが、この業績は教室における腸内菌に関する研究の端緒をなすものと言うべきである。松村教授は腸内菌叢の変動に関する研究を行ない、特に、実験的日米病鳩並びに脚気患者糞便中に脚気菌の増殖を見出して、昭和二年に細菌性脚気病原論を発表した。この研究に直接関係したのは助手柿沼（阿久津）源吾であったが、後川鴨勝治、谷川久治柳沢利喜雄等もこれに参加した。その後教室では多数の研究員によって大腸菌群、乳酸菌群腸内嫌気性菌群、その他外界の非病原菌についての広範な研究が行なわれた。その中で腸内菌叢並びに腐敗菌の研究が教室ソにおいて勃興していた民族衛生学を取入れて、本邦で初めてこの方面の講義を開始し、合わせて衛生統計学を講じた。昭和七年同助教授は金沢医科大学教授として転出し、後任に助手谷川が昇任した。昭和十一年谷川助教授は欧州に赴き、ドイツ滞在中は主としてハンブルグにおいてノイマン教授について環境衛生学、ツァイスラー博士の下で嫌気性細菌の研究に従事し、大腸菌の生体に及ぼす影響を病理学的にまた血清学的に解明することが出来た。

昭和三十八年、田波助教授が教授に昇任され、米国に留学し支えられて発展の一路をたどった。そして昭和二十八年には谷川教授を会長として、第二十三回日本衛生学会総会が千葉において挙行された。

終戦後教室における主な研究は抗菌性物質に関するもので、これは谷川教授が応召中日本における当初のペニシリン研究に関与した関係からである。次いで寄生虫の研究を始め、便所やし尿処理の研究に移り、更に動物の無菌飼育その他の問題へと発展した。昭和三十年頃より、田波助教授を中心にして哺乳動物の無菌飼育が行われ、海猿、ラットなどが飼育され、乳酸菌、ルドワークを行なうと共に無菌立した。

現在は、公害に関するフィーて得た知識によって、簡易にして確実な無菌動物飼育方式を確

無機物の有害作用を研究

大きく前進する無菌動物実験

の研究として今日まで続き、また相磯教授によって創設された腐敗研究所の原動力ともなった。また、整腸剤として今日特異の存在となっているミヤリサンも、宮入が教室在学中の研究所産である。一方後の国立公衆衛生院長古屋芳雄博士は大正十五年以来助教授として教室にあった。昭和三年在独研究から帰国後フィッシャー教授直伝の組織培養法を伝え、また当時ドイ

昭和十三年帰学したが、間もなく赤沢、相磯と共に家鶏の無菌飼育実験を開始した。

それは腸内菌の生理的意義を闡明にするには健康な無菌動物を作り、それに腸内菌の各種を単独又は組合せ投与することにより、その作用を分析的並びに総合的に推定する為であった。昭和二十年谷川は松村教授の後を受けて教授に昇任し、教授の暖かい抱容力と熱心な研究心に

無菌動物実験室で（左端は田波教授）

動物を用いて、無機有害物質（ガス状または微粒子状）の生体に対する作用を追求している。このねらいは、細菌あるいはウイルス感染の認められない動物に於ける無機物質の障害作用は特異的であるように見受けられるが、これが本質的な変化であって、人間を始め微生物感染のある生体における反応が、かえって修飾されたものであろうということである。放射線障害に関しても、この点は興味のある所であって、乳酸菌単感染動物などを用いて研究が進められる予定である。教室員は、教授以下九名であって、平野講師、浦助手、小林助手、その他であり大学院学生は五名である。少ない人員で非常に特殊で高度の技術を要する仕事をしているので当番で教室に泊り動物の世話をしながら勉強する忙しい毎日を送っている。無菌動物を用いて得られた最近の研究の一部は、今夏、第九回国際微生物学会のシンポジウムで発表される予定である。

外科必携　9版　井上　雄著　B6. 430頁　¥1,200
内科必携　9版　五島　雄一郎著　B6. 650頁　¥1,700
小児科必携　4版　糸賀　宜二著　B6. 650頁　¥1,700
産婦人科必携　4版　尾島　信夫著　B6. 350頁　¥1,200
耳鼻咽喉科必携　新刊　西端　驥一著　B6. 200頁　¥1,300
臨床血液学必携　新刊　長谷川　弥人著　B6. 154頁　¥1,200
医学生のための麻酔学必携　新刊　寛鎮郎・加藤茂著　A5. 200頁　¥1,500
衛生公衆衛生学必携　堀内　一弥　大和田国夫著　〔新刊〕B6. 400頁　表150　¥1,500

相沢　豊三・長谷川恒雄　共著
主なる神経症状の臨床的解説　〔新刊〕A5. 200頁　図35　¥1,500
和泉小児病学　和泉成之著　〔新刊〕B5. 570頁　130図　¥4,500
臨床放射線学　北畠　隆著　〔新刊〕A5. 142頁　図120　¥1,200
神経病診断治療学　三浦岱栄著　〔改訂14版〕B5. 250頁　図160　¥2,500
日英独語病歴の手引　東福寺英之著　（付）日英独医語集（7版）新書判　210頁　¥400
新内科処方の定石　森谷藤樹著　（増刷13版）新書判　450頁　¥800

東京都文京区湯島2—28—11　振替東京38848番　鳳鳴堂

最新刊
整形外科診断必携　編集
＜監修＞　慶大教授　岩原　寅猪　慈大教授　片山　良亮　日大教授　佐藤　孝三
慶大助教授　池田亀夫　慈大助教授　丸毛英二　東大助教授　松本　淳　日大助教授　鳥山貞宜
●B6　頁337　図157　写真9　¥2,500　〒120
新撰耳鼻咽喉科学　岡大教授　高原滋夫　日大教授　中村四郎　阪市大教授　山本　馨　広大教授　黒住静之
●B5　頁426　図357　写真132　原色9　¥5,800　〒160
免疫組織学　蛍光抗体法・免疫電顕法　放射性同位元素標識抗体法　京大助教授　浜島義博　京大助教授　京極方久
●A5　頁390　図82　写真53　原色16　¥3,600　〒160
医学書院　東京・文京・本郷　振替東京96693

千葉大卒業式　1,042名の卒業生

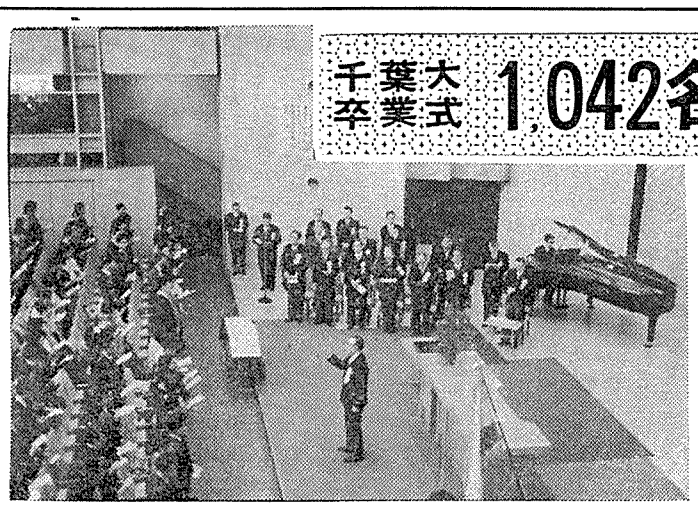
学長告辞　研讃と練磨に励め

昭和四十年度千葉大学卒業証書授与式は、三月二十日午前十一時より、医学部記念講堂において、挙行された。本年の千葉大学卒業生は千四十二名、うち医学部卒業生は八十四名。国歌斉唱、卒業証書授与ののち谷川学長より告辞があり、卒業を祝い、卒業生の前途を激励した。

また、医学部卒業生は新たに同窓会員となるので、同日午後一時より、花岡同窓会名誉会長、鈴木同窓会長ら関係者多数出席のもとに同窓会主催の恒例の歓迎会が、同窓会館学生食堂で開かれた。

医学部卒業生名簿はインターン病院別に四面に掲載

卒業式での学長告辞要旨は次の通り



学歌、蛍の光を最後に、巣立つ卒業生

本日ここに、昭和四十年度卒業式を挙行し、多数の卒業生を社会に送り出すことは、私の深い喜びかつ誇りに思う。多年蛍雪の功を積み、今日卒業の栄冠を得られた諸君に、心からお祝いを申すと共に、長年背後にあって苦労された御父兄の皆様に深く敬意を表する。

希望に燃え、大いなる抱負を抱いて学窓を巣立つ諸君の前途は、安易なものではない。卒業後も常に勉学をおこたらず、絶ゆまぬ研讃と練磨を重ね、人間形成の面においても一層努力することが肝要である。絶えず知性を磨き、頭脳を鍛えると共に、日頃豊かな愛情と高尚な情操を培い、責任と正義とを重んじ、自由と平和を愛し、かつ勇気と強い意志の涵養に努められたい。

世界の大勢を見るに、近年学術の進歩はとどまるところなく、経済の伸長はとくに著しく、かつ国際協調はいよいよ必要を増し、文化の交流また緊密を加えて来ている。今日国家は単独に存立し得ない状態であり、国際親交は強く望まれている。しかるに、各国は、平和共存を唱いながらも、互いに自国の発展を競い、国際関係はますます複雑困難の度を高めつつある。我が国は、今や世界において平和の役割を演ずべき位置に立っている。即ち、これからの日本国民は、自らの繁栄と進歩に努力すべきことはもちろんだが、同時に外国との親善に努め、進んで人類の進歩、世界の平和に貢献する責任を負うものである。ここに大学出身者は、期待されるところきわめて大なることを自覚すべきである。母校の名誉を重んじ、常に専門的学術、技芸の研讃に励み、円満なる常識と教養を身につけ、高い人格と気品を堅持すると共に、社会全体の意識を高揚し、良い国家の建設に寄与されたい。さらには国際社会の一員として、尊敬と信頼を得られるよう努めることを切望する。

終りに、諸君に「随処作主」の四字を贈り、はなむけとしたい。臨済禅師の有名な言葉の一節である。我々がいかなる場に生きるとしても、その場の主体となっていくことに、真実の生き甲斐があり、たくさんの事象にひきまわされることがないのだ、という意味である。いわゆる職人気質という、自分の仕事のためには、損得利害を打ち忘れ、仕事の鬼となることに生き甲斐と誇りを感じている気風をいう。この古風な生き方が、かえって新しい意義を持つことを、今日の時点からもう一度反省してみたい。

九十周年記念ゐ祭記録完成

昨年、創立九十周年記念ゐのはな祭が十一月一日から三日間行われた際、記念保存の為、記録部が設けられて、学三、学二、看学が中心になり、写真撮影、録音をして四カ月の長きに渡り編集し、二月十八日昼休みに第一講義室で試写会を開いた。五十人が観覧したがスライド式トーキーで立派な出来であった。

四十年度大学院修了者　学位授与式行わる

昭和四十年度大学院医学研究科修了者に対する医学博士学位授与式は、三月二十三日午前十一時より医学部記念講堂において行なわれた。大学院修了生四十一名の氏名は次の通り。学位論文題目は本紙二十八号に既報

鈴木　英弘　長谷川修司
兼重　忠司　山崎　修道
横山　健郎　秋本　宏
小倉　敬一　野尻　雅美
中村　学　石原　運雄
黒田　健昭　翠原　稔
国安　芳夫　稲葉　和也
斎藤　利隆　松本　一暁
森川　幸月　川村　光毅
吉川　武彦　白石　博康
末吉　貴爾　北沢　清子
松本　全　川瀬　健二
近藤　省三　市村　公道
戸井　道夫　中川　康次
大川　治夫　小越　章平
田　紀克　長尾　孝一
谷口　滋　加藤　喜市
菅子　礼　諏訪部　博
小沢　虎　岡田　信道
加藤　昌義　朝倉　茂夫
神谷　定治

四十一年度　医学部入学者

相田尚文（日大二高）　朝比奈信武（北園高）　足立郁夫（開成高）　新井裕一（希望丘高）　有賀直文（姫路西高）　有坂真理子（足利女子高）　家里憲一（九段高）　石場俊太郎（広尾高）　石橋千昭（関東学院六浦高）　一戸彰（千歳高）　伊藤文二（時習館高）　上野克彦（都立青山高）　魚住顕正（開成高）　梅津亮二（開成高）　榎本正満（戸山高）　大熊秀一（上野高）　大西琢雄（新宿高）　小原康史（大田原高）　小俣政男（桐朋高）　奥山和明（鶴岡南高）　亀田洋（栄光学園高）　菊池洋（九段高）　北原浩（浦和高）　橋川征夫（長崎西高）　宮保晴彦（芝高）　木村邦夫（小石川高）　久保長生（井草高）　黒田重史（開成高）　黒山宏志（津山高）　河野光裕（川崎高）　腰塚格（栃木高）　堺常雄（米沢興譲館高）　佐藤誠（宇都宮高）　相良正彦（足利高）　塩田悦司（東工大附属工高）　篠原信賢（戸山高）　白松一安（浜松北高）　杉山吉亮（北野高）　萱谷純弘（藤枝東高）　住吉徹是（小山台高）　高橋長裕（土佐高）　高橋正年（開成高）　滝沢淳（上田高）　武久徹（千葉高）　谷川達也（荻窪高）　千見寺勝（新宿高）　寺沢捷年（両国高）　天神弘尊（沼津東高）　蠧健（長野高）　伴野悠士（栄光学園高）　中野雅行（西高）　中野義澄（千葉高）　中山章（下妻一高）　永井米次郎（小山台高）　永岡晋久夫（千葉高）　新倉春男（開成高）　西林聡武（千葉高）　野口健太郎（豊多摩高）　野田宏子（東教大附属高）　長谷川毅（小山台高）　林泰（飯田高）　藤田千代子（湘南白百合高）　古川隆男（日川高）　平山博久（荻窪高）　堀内正敏（独協高）　松下徳良（日大桜ケ丘高）　松本純子（駒場高）　丸山俊秀（鶴岡南高）　宮原弘次（上野高）　村山正昭（桐朋高）　山崎紘之（日比谷高）　湯原幹男（豊多摩高）　渡辺義一（新宿高）　渡部十九六（大森高）　済陽高穂（金沢大附属高）　当間しのぶ（琉球首里高）　与儀裕（琉球首里高）　曽麗富（中国台南女中高中部）　橋本英明（荻窪高）　堂後昭彦（開成高）　向井将（東京学芸大附属高）　鈴木盛一（日大二高）　入江公子（戸山高）　花輪孝雄（韮崎高）　上山洋（大森高）　北島忠昭（両国高）　柴田皓三（葛飾野高）　グラム・アハマト（アフガニスタン）　ローカイ・カミャール（アフガニスタン）　ショセフ・ナポレオン・アントニ（マレーシア）　サイサモン・ヴィセスリン（タイ）　黄淑貞（中国）

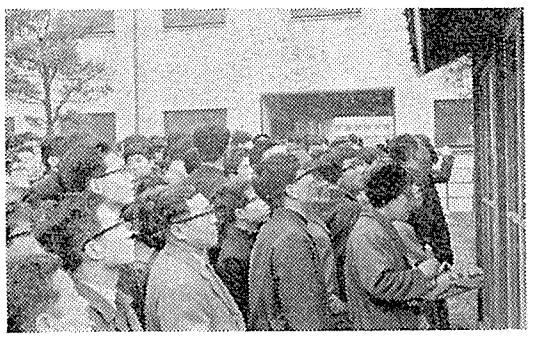
41年度編集部員名簿

部長　一瀬正治（学三）
編集長　今井卓夫（学三）
学四　平賀一陽　高崎　健
学三　板谷喬起
学二　劉　崇正　高橋達枝
学一　浅井利夫　園田俊雄
医進二　柴田皓三
保阪善昭　松清　平
柳橋雅彦　山口康一郎
吉田　研　里川まさ子
山本　勇　蟻川瑛幸

四十一年度医進課程　合格者発表さる

去る三月十九日午後一時、四十一年度医進課程入試合格者が発表された。ベビーブームにもかかわらず例年を少し上まわる二二・七倍の競争率に留り、合格者の学力が高いだろうと期待されている。

千葉高　飯塚玲子、小野豊、勝呂徹、中村勉、広瀬彰、水野毅
小石川高　大塚薫、清水淳子、森田敏和、柳瀬義男、山田研一、力武和之
開成高　内田邦明、大野一英、野口武英、正木英一
新宿高　宇津見和郎　立塚曜子　塚本創一郎、松島保久
両国高　池松正次郎、大岩孝司、岡信男
上野高　前島周一
都立青山高　飛沢彰、内藤威、古屋桂吾
水戸一高　大和田哲夫、田沢浩、村木登
銚子高　伊藤文憲、吉田象二
木更津高　鈴木洋文、若山芳彦
市川高　桧垣進、牧野定夫
東京教育大附属高　井出真実、北浦真理
東京学芸大附属高　阿倍和男、大崎逸郎
戸山高　猪股弘明、大場敏明
千歳高　稲葉憲之、西野卓
小山台高　坂木昭雄、宮本尚彦
立川高　佐藤展将、宮路太
芝高　塩田敬、長尾啓一
独協高　石川昭雄、加藤威
浦和高　翠原正、田中隆二
神奈川県聖光学院高　名取道也
山森秀夫
松本深志高　大谷尚子、豊田敦
沼津東高　菊池友允、翠美子
東葛飾高　渡辺滋
成東高　菅野勇
大多喜高　中島征男
佐原高　鈴木光二
安房南高　長谷川陽子
東京教育大附属駒場高　臼井宏
北園高　相川英男
鹿島高　浅野誠
都立西高　岩崎純子
都立駒場高　執行一簡
井草高　鈴木明
日大三高　岩沢博司
女子学院高　牧野理子
駒場東邦高　小林祐輔
北海道滝川高　大西久仁彦
札幌南高　井上信一
山形県寒河江高　尾形実
仙台一高　笠貫順一
土浦一高　向井稔
不動岡高　漆原徹
栃木高　大橋浩文
真岡高　堀中悦夫
足利高　外岡正英
前橋高　樋下田稔昭
横浜金沢高　刈部喜一
希望ケ丘高　鍋島誠也
山梨県市川高　河西十九三
長野高　村田住子
上田高　真山和徳
野沢北高　相馬光弘
浜松北高　小林敏男
米子東高　脇坂正美
取鳥西高　広谷忠彦
出雲高　岡田洽大
広島大附属福山高　後藤哲也
丸亀高　奥田孝子
愛媛愛光高　旭俊臣
韓国五賢高　玄千亨
中国新竹女子高　劉満枝



特設掲示板の合格者発表に見入る受験生

新学期に贈る
南山堂の優秀参考書

本邦唯一の医学百科
南山堂　医学大辞典　豪華縮刷　価三九〇〇〇円
前東医大教授 加藤勝治編　医学英和大辞典　豪華縮刷　価三五〇〇〇円
賀川哲夫編 浦久保改訂　独羅英 仏一和　標準医語辞典　豪華縮刷　価二五〇〇〇円
日本医大教授　金子丑之助著
日本人体解剖学　第一巻 第二巻 第三巻　10版　価四〇〇〇〇円 価四〇〇〇〇円 価五〇〇〇〇円
金沢大学教授 本陣良平著　組織学入門　新刊　A5 三六四頁　価一六〇〇円
名大名誉教授 戸苅近太郎著　組織学　8版　B5 三六八頁　価三五〇〇円
東北大学学長 本川弘一著　最新生理学　2版　A5 四五四頁　価二二〇〇円
大阪大学教授 山村雄一著　新医化学　5版　B5 六一二頁　価三五〇〇円
東大名誉教授 緒方知三郎著　病理学入門　8版　A5 三五八頁　価一三〇〇円
東北大名教授 赤崎兼義著　病理学総論　4版　B5 四〇八頁　価三五〇〇円
東北大名教授 赤崎兼義編　病理学各論　II I　価三一〇〇円 価三五〇〇円
東京医大教授 原三郎著　薬理学入門　7版　B5 四七〇頁　価二七〇〇円
九大名誉教授 戸田忠雄編　戸田新細菌学　18版　B5 七五四頁　価四七〇〇円
北大名誉教授 井上善十郎編　新衛生公衆衛生学　9版　A5 五四八頁　価一九〇〇円
東大名誉教授 冲中重雄改訂　吳建・坂本恒雄著
内科書　上巻 中巻 下巻　36版　価五五〇〇円 価五五〇〇円 価六〇〇〇円
大阪大学教授 蒲生逸夫著　小児科学　初版　B5 六〇〇頁　価四〇〇〇円
大阪大学教授 立入弘著　放射線医学入門　3版　B5 六八四頁　価四五〇〇円
工藤・橋場編 光野・都留編 半田・野村共著　脳神経外科学　版編 初版　B5 五九六頁　価五八〇〇円
神中正一 天民和訂 河児訂 野宙改　神中整形外科学　改版　A5 一一四八頁　価八八〇〇円
志学書店
メジカル書院

学四の動き

個別病院別交渉とその実態

学四　内村逸郎

（一）

我々は、昨年、実地修練についての基本的な考え方と具体的な運動の進め方について全学投票で独自の方針を確認した。

すなわち、（1）我々は、現在の学部教育を前提としても医学教育の最終段階として実地修練を必要と認める。（2）現在のインターン制度が不十分であり、その改善には長期間かかったとしても、その充実のために努力していく、（3）従って、我々には単に制度をどうこうすること（現行イ制を存在するとか、廃止するとかの問題）に運動の目的をおくのではなく、実際に不備となっている教育体制（スタッフ、設備等）と実地修練生の経済保障を具体的にどう充実させるかということを目的とする、というのが我々の運動の基本方針である。この方針を貫くために、我々は次のような具体的な行動をとることを決めた。

第一に、実地修練生の配置は、そこで修練生がどのような教育を受入れるかを目標にし、従って、厚生省への圧力だけを目標にした「大学たてこもり」などは行わない、第二に個々の病院と交渉を行う。そのために、各病院に一定数の修練生を配置する。

第三に個々の病院との交渉をうらずける保障を政府に求めて運動する。

この方針は、「インターン制度の完全廃止」を唱え、そのために、願書提出拒否、大学病院全員たてこもり、国家試験ボイコットの戦術を決めた医学連のそれとはかなり異ったものとなっている。そのために我々は、医学連の多くの討論会の場でいろんな非難を受けてきた。しかし、これらの方針が決して安易な分析やせっかちな討論の中から生れたものでないことを我々は知っている。我々の結論はこれらの批判に耐えうると確信しているし、同時にこれらの方針を具体的に実践して、一歩でも前進していくなら、我々の立場はさらに強固なものとなることを疑わない。

（二）

我々が方針を具体化するに当ってまず最初に手がけたのは病院の実態調査である。調査は、修練の場としてふさわしい科目、スタッフを備えているかどうか、インターンに対する経済的援助はどうか、宿舎、白衣の貸与、インターンルーム、ロッカーなどを備えているかどうかなどの諸点について行われた。対象病院は関東一円を主にその他個人的に希望する病院については、その分布は全国に及び、その数は約一〇〇であった。調査にはクラスのほとんどの者がたずさわり、近在のものは直接、遠方のものは手紙で依頼した。この中から充実度を比較して、約二〇の病院を選定した。我々は当初、従来の指定病院のワクをとりはらって全く自由に病院の調査を行ったのであるが、選定された病院がすべて厚生省の指定病院に該当したという事実は、医学連の情勢分析と照らして全く皮肉である。次はこの選定した約二〇の病院を対象にした病院交渉である。我々は何回も病院に足をはこんで、インターンの待遇問題、修練充実のための話合いの場の確立、カリキュラムの問題などについて交渉した。この結果病院側は交渉などという全く初めての経験に面喰いながらもかなりの好意を示してくれた。国立千葉病院の交渉を足掛りに対象の国立病院に、いままでゼロだった手当の月六〇〇〇円支給を認めさせることもできた。話合いの場の確立、カリキュラム作成に当って修練生側の意見を十分配慮することや指導の責任体制を確立することができた。ロッカー、インターンルームの完備、白衣の貸与といった要求にはほとんど応じた。しかし予算を伴う生活保障の問題となると、そのカベは実に厚い。ここまでくれば病院交渉の限界をある程度感ぜざるを得ない。だからこそ病院側の協力を得て、政府、厚生省に働きかける次のきめ手となる運動がぜひ必要になってくる。

我々の交渉は必ずしもこのようにうまくいったわけではない。多くの病院では、昨年インターンが来なかったというのでこれ幸いとばかりインターンルームを病室にしてしまっていたし、インターンがきたんではそれだけ仕事が増えるのだから迷惑だ、とはっきり公言してはばからなかった。この辺の事実は、インターン病院はインターン生のタダの労働をほしがっている、という医学連の情勢分析と一致しない。確かに地方病院にはそういう病院が多いという。しかし我々の接触した病院の多くは、厚生省から逆に無理矢理に指定をおしつけられた印象を受けた。我々はこういった病院とは全く利害を同じくする。その意味でも我々は、医療側のもっと強い関心を喚び起し、厚生省の片手落ちな行政をきびしく暴露して、要求の実現をせまる必要があろう。

我々は第三の段階として、これら約二〇の選定病院の諸条件を全員に発表し、各人の希望を調査して第三志望まで十人に満たぬものは機械的に除外した。この方法については、我々が最終的な選定病院を決定する段階で一もめして、必ずしも良策とはいいがたいが、今後我々の例を参考にもっと検討する必要があるかも知れない。こうして、最終的には一病院に十名前後の修練生を配置するということで大学病院、国立千葉病院、国立国府台病院、旭中央病院、国立東京第一病院、警察病院、中央鉄道病院の、七つの病院が選定された。その他、個人的な理由で二、三の病院にいく例もでてきたのは残念だったが、ほとんどの学友がこれらの病院に結集することができた。

（三）

我々は先にも述べたように生活保障の面でほとんど前進することはできなかった。このために、多くの部分が生活をアルバイトに頼らざるを得ない。生活と教育の充実をこのきびしい現実の中でどう調整していくか。過去には、充実した教育を受けるチャンスをかなり持ちながら生活費かせぎに流れたため、病院側も教える熱意を失っていった例が多くある。我々にはこの問題を解決する抜本策はないしかし、アルバイトそのものを野放しにすることは、せっかく確立しようとする教育の場を再び破壊された場にもどしかねない。

我々は、この点、アルバイト日を最高週二回程度にひかえるといった金と個人的なモラルに頼って、何んとか前向きの姿勢を保ちたいという方向しか見出せなかった。いろいろ問題はあったが、我々は一応まとまった形で実地修練に臨むことになった。我々の運動はこれで終ったわけではない。我々は千葉大学インターン連絡会議を結成して、各病院間の連絡を密にしながら、実地修練のよりよき環境作りのために活動をより具体的に続ける。医学連では、願書拒否、大学たてこもり等を加盟資格条件に、青年医師連盟を結成するが、今後は無給医局員の問題に運動の主力をむけることになろう。我々も一年後にひかえるこの問題に無関心ではありえない。我々は、インターン問題に対処したと同じように、主体的にこの問題を検討しその運動の進め方についても討論をつみ重ねていく。そして、その結論が、青医連の方針と共通の場を持ちうるならば、どんな形であるにせよ、積極的に共闘を進めることになろう。

（本年度卒業生）

混乱した「イ」デモ

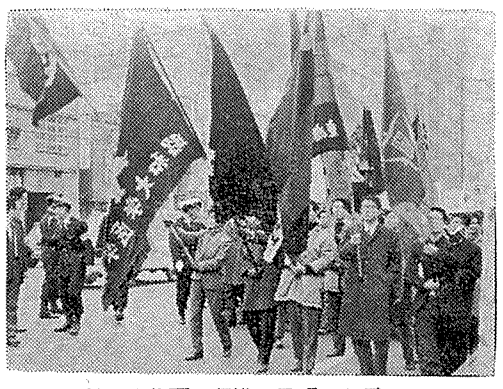
「新仮免法案」に反対

「新仮免法案」に反対して全日本医学生連合の抗議集会が二月二日午後一時半より千代田区紀尾井町の清水谷公園で開かれ、続いて厚生省に向かって抗議デモ行進が行なわれた。清水谷公園には、関東ブロックの医学生約千二百人が集まり、千葉大医学部からは有志一十三名が参加した。

山下医学連委員長をはじめ各校の代表者演説のあと、「我々の将来を賭けた、ささやかな要求を掲げて厚生省の欺瞞に我々は断固抗議しよう」との言葉でもって、抗議デモ行進に移った。

デモ行進は厚生省前にさしかかるといつもにない激しいジグザグデモとなり、これを抑えようとする警察側の力も強く、計画した厚生省前道路への座りこみは不能となり、混乱のうちにデモ行進は数分予定といわれる医師法改定案の内容を我々に示すこともなく、当事者である我々医学生を無視していたものである。」と抗議の表明をした。また井上青年医師連合準備会長は「医学部長・病院長会議は、病院経営者側に加担し、厚生省の欺瞞を支持し、医師としての我々の将来の問題などに対する抵抗であり、厚生省の義務化せんとする考えを打ち砕くものであり、合理化に反対するためには「イ」制を完廃するものではない。という考え方から引き出された「イ」制完廃論である。現在までの中執の「イ」制完廃論とはニュアンスが違っている。自主的にやっていくという点について責任は青年医師連合という組織にまかせるとも言われたが、本学の学生達は、個人の責任に期してしまうのではないかという不安をぬぐい切れないようであった。本学のインターン問題に対する態度については、別掲の学四の報告を参考にして戴きたい。

「新仮免法案」と称せられたものは、一、現行インターン制度は廃止、二、卒業後直ちに国家試験を行い、一切制限のない正式医師免許を与える。



校旗を先頭に行進する「イ」デモ

イ制完廃論の変質

東大オルグ来校を見る

去る二月十日予定より一時間遅れた六時、東大医学部からのインターン問題に関するオルグが到着しただちに本論に入った。

イ制完廃の理由として、

一、現行「イ」制には初めの理想が実現されていない。

二、教育は要求して自分達で作って行くことができる。

三、現行「イ」制は労働収奪として合法化できる。

があげられた。すなわち実地修練を自主的にやっていくことが、合理化に対する抵抗であり、厚生省の義務化せんとする考えを打ち砕くものであり、合理化に反対するために「イ」制を完廃するものではない。という考え方から引き出された「イ」制完廃論である。現在までの中執の「イ」制完廃論とはニュアンスが違っている。自主的にやっていくという点について

三、免許取得後一年間は指定病院で道義的に（？）実地修練を行う。（病院指定権は大学病院長がその実質をとり、修練の責任は医育機関が負う。）

これに対し本学インターン委員会は、「政府の負うべき教育責任を個々の修練病院に負わせる狙いがあると考えられ実地修練教育条件の整備という我々の要求を満たすものではない」と反対決議をした。

一方、医学連も、インターン完廃要求の原則を掲げて反対決議をし、この抗議デモをおこしたわけである。

千大 東大 学二合同討論会

インターン問題に関し、本学学部四年生と他大学学部四年生との間における紛糾の解決の道を、全く見い出し得ない現況の下に、本学と東京大学の学部二年同士の討論会が、両校のインターン委員達の骨折りにより、二月十七日午後五時より病院第二講義室に於て実現の運びとなった。

当日は、東大から約二十名の学友を迎えて、千葉からは、五十名程が参加し八時過ぎまで熱心な討論が繰広げられた。

主旨は、お互に戦術を云々するのでなく、もっと根本に立ち戻って話し合い、少しでも多くの一致点を見い出し、また相違点を明らかにしようということであった。

最初に東大側から、三十数回にわたるクラス討論の結果、確認された事項を『千葉大学学二諸君へ』と題するプリントとして配布されその説明がなされた。

続いて、千葉大側からは、クラスとしての意見ではないがと前置して、千葉大としての意見が発表され討論に移った。

先ず根本問題から議論が進められインターン制度完全廃止を唱える東大学友も、インターン制存続改善を唱える本学学友も、卒業後の実地修練は、何らかの形で行なう必要があるという点で一致がみられたが、その方法となると、全く現在の社会等に対する情勢分析の相違のため双方に大きな距離があり、三時間位の討論ではどうすることも出来なかった。しかし今後千葉大の全学生のインターン問題に対する真剣なる取り組みさえあれば、この種の試みに大きな成果が期待されると考えられる。

四十年度卒業生の実地修練希望病院別名簿

今年の卒業生はクラス討論により現在の学部教育では実施修練は必要である、との考えから医学連とは独自の立場をとり、全国百近くの病院の調査をしてその中から選定病院を決定した。八十四名の卒業生のインターン病院は右の通り

本学附属病院　天羽達郎、飯島一彦、飯島幸雄、大島仁士、柏原英彦、門脇淳、神谷努、菊池義公、樓井信清、三枝俊夫、塩沢博、白浜龍興、白石真人、瀬川五雄、高田忠敬、竹島徹、田島龍一、田中文隆、陳瑞和、永山弓、那須武、平野彰三、福田淳、福田康一郎、丸山雅一、守田博之、薬師寺隆、鎗田努

国立東京第一病院　神谷定茂、斎藤俊弘、島田純一、鈴木治男、豊田雄敬、内藤敬一、中村宣生、古屋征毅

国立千葉病院　岸本圭司、佐々木徳秀、里村洋一、篠崎良一、島田哲男、竹内豊、花井透、真栄城尚志、御園生正紀、安江万二。

国立国府台病院　青柳晶彦、新井茂郎、韓培元、佐々木巽、竹中星郎、二連木富美子。

東京警察病院　井深田鶴子、落合武徳、狩野洋子、小松忍、関根務半沢儁、渡辺寛、渡辺一男

虎の門病院　王明蒼

聖路加国際病院　郷振義

三井厚生病院　金元良人、塚元嘉一

旭中央病院　小川聖二郎、高橋淳一、永井公大、溝口勝

東京中央鉄道病院　天野勝弘、石田逸郎、内村逸郎、大塚明彦、小野道子、城戸機江、工藤典雄、桑木綱一、小島和彦、小林伸行、小林英夫、諸岡啓一

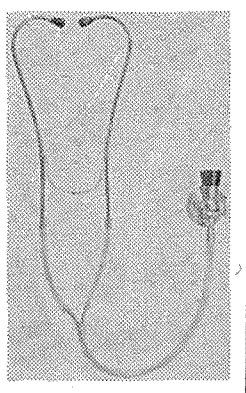
北野病院　市川清子

岡山大学附属病院　小池秀爾

米国海軍病院　鈴木豊

米国陸軍病院　武井孝達

ヤコスコープ（YACO-SCOPE）



特長

①ヤコスコープは低音部，高音部の聴診をコックの切替にて容易に出来る。（片手指先で軽く出来る）

②呼吸音，心臓音，胎児音等広範囲に集音し，なお高音で聴診出来る。

③本器は先から耳迄，全内径が5㎜に作られ音の伝達をよくしてある。（是れは特に専門家の指導に依るものです）

④聴診時の雑音防止又は高音質を保つ為に柔軟性ビニール管を使用してある。

金属部は従来の物を改良し，ゴム接続部を長くし，片手にて耳からの着脱が楽に出来る。

￥1,500　特許出願中

株式会社 糸永貞樹商店　東京都文京区本郷3丁目36番8号　電話 811局1131（代表）

100,000 医人の週刊医学雑誌

週刊 日本医事新報

清新潑剌・充実無比

「学説」「学会印象記」「画報」「MEDICAL ESSAY」「時論」「ニューズ」「一週一話」「私の考え方」「質疑応答」「閑窓夜話」「東銀座だより」「医事案内」其の他

毎週土曜日発行

三カ月定価 二三〇〇円　六カ月 二一〇〇円　B5判 一部 五〇〇円　百数十頁

送料共 送料共 三円

最も親切なる臨床医家の好伴侶

日本医事新報社

東京都中央区（京橋局区内）銀座東 2—11

TEL（541）3344（代表）・振替 25171 番

伸びゆく千葉大学

学長に聞く

昨年医学部が創立九十周年を迎え、その前年、医学部を含めた千葉大学は新制大学として出発して丁度十五周年を迎えた。発足当時は旧制の千葉医科大学を母体に県内の各種専門学校の寄せ集めに過ぎず大学としての形も内容も不充分であった。俗にタコ足大学と称せられ、医・薬学部が、亥鼻・矢作町に、教育学部が、四街道に、文理学部が稲毛に、工・園芸学部が、松戸にと分散され、その統合が強く望まれていた。そして数年前からその統合計画は、逐次実行に移され、教育、文理、工学部は、西千葉地区東大生産技術研究所の跡に移転され、すでにそこが、千葉大学の中心的役割を果し始めている。さらにこの夏には、薬学部もそこへ移転しほぼ総合大学としての形態を整え、完成の域に達している。こうした名実ともに総合大学となる努力を直接担ってきた最高責任者が、谷川学長であった。去る二月の学長選挙で再任の決った同学長に、ゐのはな同窓会報編集部は、三月十二日午後、学長室を訪れ、約三時間に渡り我々が今後の千葉大学発展に関して関心のある諸点を伺った。とくに医学部では、旧式な上に手狭になった現病院に代る新病院の建設がどの程度進行するか期待は、甚だ大きい。関係者の尽力により、誇り高き大学への前進が、軌道に載った現在、最高学府としての学生の自覚と本学の学問研究の発展がますます強く望まれる。

解説

今回の学長選挙は、昨年十二月九日千葉大学協議会により学長選挙基準の改正が行なわれ、第一回の投票で過半数を得る候補者がない場合には、第二回の投票を行ないそれでも決定されない場合には、上位得票者二名について第三回投票を行なう形式が採られた。又再選された学長の任期は二年とされ、引続き六年までしか在任できないように改められた。このため今回の選挙は、今までに例のない激しい票争いのため結局決戦投票をもって結果が決まる形となり、投票所へ三度も足を運ばねばならないやり方に、煩しさや時間の無駄といった批判も聞かれた。結果から見れば、谷川学長支持は相当強く、名実ともに総合大学にという谷川学長の理想とその実現への実績は、一部の批判を除いて、高く評価されている模様である。西千葉地区の総合整備計画はほぼ完成の域にまで達し、次には医学部関係の事業があり、また松戸地区の園芸学部関係の事業もある。なお学長選挙有資格者は、本学教授、助教授常任講師で、医学部八十五名、附属病院十一名、文理学部七十七名、教育学部六十七名、工学部六十六名、薬学部十七名、園芸学部三十二名、留学生部三十一名、腐敗研究所九名、工業短大部十四名、本部一名、計四百十名であった。

日本一のスピードで学内整備進む

編集部　まず再任にあたっての抱負をお聞かせ下さい。

学長　推薦制で選出されたので予め公約したことは特になく、継続ですから、今までの仕事を完成しようということに尽きるわけです。残っている大きな題目としては、まず文理学部の拡充改組の問題、それから医学部の病院の新築をある程度軌道に載せたい。さらに、基礎校舎続きに図書館を移し、建物の形を整えたいこと。もう一つは園芸学部の大学院修士課程を設けたいということです。西千葉地区関係では、中央図書館、体育館教職員並びに学生の厚生施設の完成ということもあります。本部の建物は任期中には可能性が少ないので特に考えていません。とにかく、できることからやっていきたいと思います。

薬学部（旧基礎医学校舎）前の並木道

中央システムの新病院　四十一年度着工か

編集部　西千葉地区の整備のメドが一応ついたところで、この次は医学部関係の計画として新病院建設の問題がありますが、それについてお聞かせ下さい。

学長　病院新築に関して、いまの構想は現在薬学部（旧基礎医学校舎）がある所に建設しようというものです。設計については、いろいろあるのですが、まだどんなものにするかという具体的なものは決っていません。これからほんとうの形になっていきます。

病院建築で問題は、慣着がありますから、現病院を使用しながら建てなければならない。したがって建物の半分位が完成すれば、逐次移転を行なっていくことになると思います。

病院の機構は、最近の傾向を取入れて、現在の病院のような各科独立の形ではなく、いわゆる中央システムの病院にしなければならず、それには、外来をはじめ、検査室、手術室などすべてを中央化して、機能的に使いやすい形でなければいけない。また診療の面でも看護の面でも能率的にできるようにしなければならない。現在の病院は、ドイツ式の各科独立の形態で最も古い型の最後の形です。今ここの病院でもしているようにすべてを中央化してやらねばいけないわけです。

新病院建設に当たっての課題は、現在の病院の建物（約一万坪）をどう活用するかということです。これを合理的に使用するという計画が立たないと、文部省は新築に踏み切ってくれないわけです。それで、昨年来、関係者と何回も懇談して、ここに腐敗研、肺癌研、農山村医研、そして四十一年から新設される脳機能研などを入れるということ。さらに、予算などの関係から、臨床の研究室をしばらくここに残しておき、診療部門だけを新病院に移すことになっています。診療部門と研究室とを離すことは不便であることは事実なのだが、予算の面と、現病院の建物の使用計画を合理化するためにもしばらくはそのままにし、現病院の建物全体を一つの医学研究センターとして活用する案をたてています。また、看護学校、X線技師学校なども、この中に入れることになります。したがって、医学部は基礎医学校舎、共同研究センター、診療機関である病院と三つの建物になるわけです。

編集部　この計画の実現化はどのように進行しているのですか

学長　四十一年度予算の一部に病院新築に関する調査費も含まれており、それによって、全国各地の優秀な病院を視察したり、設計図を参考にしたりして、最新の粋を集めたものを作りたいのです。おそくなったわけですが、何十年も先きを見通して、おそくなった分だけ、より立派なものを作りたいと思います。

いろいろな図を何案も作ってみているわけですが、全体の形も、他の病院を参考にしながら、使う人々の意見も入れながら、何回も練り直していかなくてはならんと思っています。

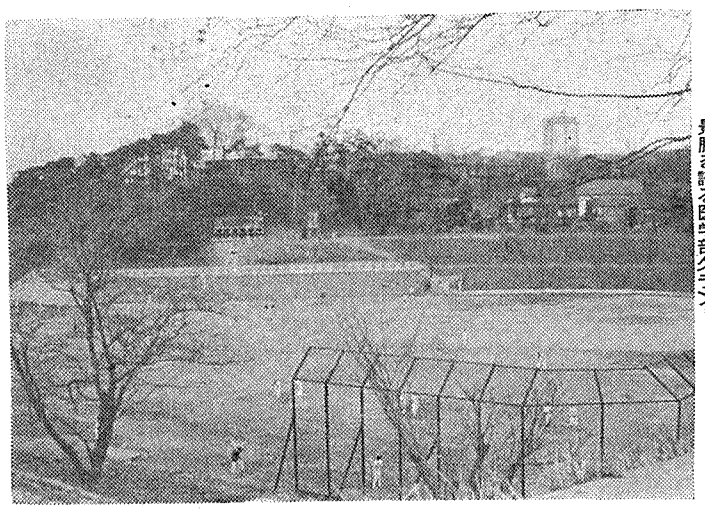
編集部　その規模と、完成までの期間はどの位の予定ですか。

学長　だいたい一万三千坪位に見込んでますが。ベッド数は一千床将来は千二百床を予定してます。四十一年度には、敷地の土質調査や設計検討が行なわれますから、順調に行けば、まず四十二年度から工事にかかれるものと思っています。そして完成までには早くて三年。五年はかからないと思います。全部の完成を待たないでも、外来、検査室、手術室など中央化するものを先きにし、また外科病棟も先きに作っていき、機能的に利用できる程度にでき上れば使用し始める、というやりくりで行なっていくつもりです。

費用の点ですが、内装設備・機械などすべて新しいものとなるので概算で二十数億円は、かかるだろうと思っています。これだけの予算は、三年程度の期間に一つの大学にちょっと出にくいと思いますが、努力してみるつもりです。今までの西千葉統合計画の予算で最高は年間八億一千万円でしたから

編集部　今の野球場とかテニスコートなどが、池にされるのではないかとの心配が一部に聞かれますが。

学長　いや、そんなことはありませんよ。せっかく起伏のある風致地区を壊すことなぞ、考えてもいません。それに莫大でむだな費用がかかりますしね。もし掘出した土が多い場合一部が埋められて、整地されるでしょう。泌尿器科、肺研、整形あたりの木造は取り払います。精神科の建物も別の目的に使用します。するとここにある程度の広場が出来るので、将来パーキングその他に使うことになりましょうが、現在のテニスコート



景勝を誇る医学部グランド

編集部　前任期に果された仕事について御説明下さい。

学長　本部始め、教育、文理、工学部の西千葉移転、千葉大学創立十五周年記念式典や関東甲信越体育大会等の開催、薬学、工学部に大学院（修士課程）の設置がなされ、医学部については、麻酔学講座、農山村研究施設の新設、肺癌研の部門増設、明年度は脳機能研究施設及び中央検査部の設置が内定しています。その他各学部等の実績は省略します。建物について見ると、西千葉総合計画を主とし園芸学部、学寮等合せ、総計二万三四〇〇坪の新営工事をやりました。条件に恵まれたこともありますが、恐らくこれだけの工事は日本一とみてよいと思います。

医学部関係では、昨年看護婦寮千百坪を造るための予算をもらえる約束があったが、敷地の問題、全体の計画が確定してないなどで流れてしまいました。

編集部　昨年夏頃、その看護婦寮がサッカー場に建てられるというので、学生が大分心配したのですが

学長　人の住んでいる建物がないところにと考え、看護婦寮はサッカー場に作り、のちほど別な所にサッカー場を作る計画でしたが、案がまだまだ未熟であったために一応やめにして、病院新築計画の一部に含めてやっていくつもりでいます。

新病院の敷地は、現在の感じではずいぶんはしっこのように思えますが、近い将来付近に循環道路ができるとのことですから、バスも入るし、周りに住宅地ものびていくでしょうし、発展性があって不便はないのです。

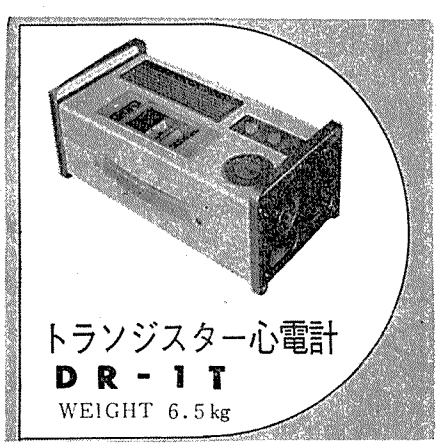
しかし、こういう構想ですと一つの問題点として、臨床と基礎との建物がずっと離れてしまいますねもう一つは、基礎の建物が、基準の三千五百坪で工事が打切られて当初計画の七割程度のままになってます。これを将来、教室、講座の増設、また図書館分館をこちらに移して、何とか形を整えたいのが、私の希望です。病院の建設に伴って当然現在の図書館も移さねばなりません。これらのことは、私の二年の任期のうちに、完成することはできないが計画を全部軌道に載せたいと思っています。

編集部　新病院の建設に伴い、第二学生寮はどうなりますか。

学長　それはまだとくに考えていませんが、一番可能性のあるのは少し遠くなりますが習志野になると思います。現在千葉大の寮敷地として考えられているのは、稲毛と習志野ですが、まだ具体的に決まっていません。しかし廃止とか縮小ということでなく、必ず新しい代りのものができます。

＝六面につづく

技術と伝統をほこる
心電計専門メーカー
すぐれたネットワークを擁して御満足の戴けるアフターサービスを実施しております。
福田エレクトロ株式会社
京葉 茨城地区 総代理店
FUKUDA ELECTRO
（株）三井商事
千葉市亥鼻町二四二
千葉(2)5626・3027・6282
東京(713)6517
水戸(2)5687 (3)3912

フクダ心電計

トランジスター心電計
DR-1T
WEIGHT 6.5kg
フクダ医療電機
千葉販売株式会社
千葉市亥鼻町301番地
電話(7)—1596
本社 フクダ医療電機株式会社
東京都台東区池ノ端七軒町7番地

すばらしき学園めざして

編集部　西千葉統合計画はどのように遂行されてきているのですか。

学長　西千葉には四学部が統合されるわけです。文理学部理科系が最初で、工学部、工業短大、次に一般教養、教育学部、附属中の順で建築が行なわれ、現在附属小、附属幼稚園を建設中です。薬学部も四月には完成します。また稲毛には寮を建設中です。

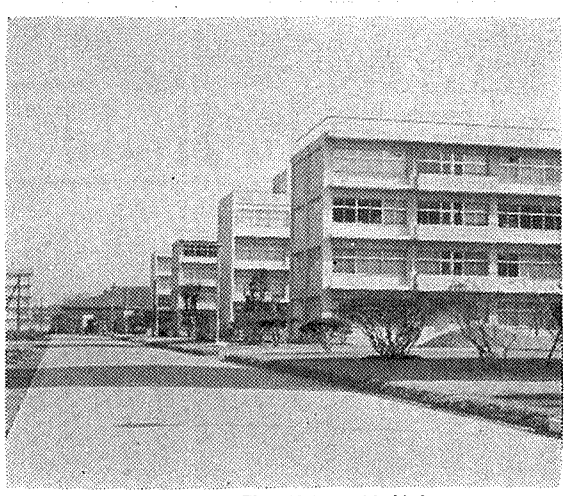
今後の計画として、体育館は、基準では四五〇坪ですが、七五〇坪のものを四十一年度早々に着工します。また、図書館は、四十一年度の基準は一千百坪なので翌年の基準改定を待って、一千九百坪のものを四十二年度に着工します。また、先きに千葉県から三億円の寄附をもらう約束があるが、建設中の附属小をはじめ、明年度の体育館、厚生施設（食堂を含む）の建設費に当てます。厚生施設は、約四百坪のものとなります。現在の学生食堂をそこに移し、そのあとに、翌年図書館を作ることになっているのです。

なお、道路整備、造園などを進め、所謂環境整備を急いでいますが、素晴らしい学園の雰囲気を出したいと苦心しております。

編集部　木造校舎はいずれ取り払われるとのことですが、遊休施設を利用して使用されていたサークル部室は、その際どうなりますか。

学長　新しい計画に抵触する場合は、その建物を取り払うことになりますが、一旦取り払うと代りのものはなかなかできないのです。しかし、その頃には、大学会館というものができて、連絡場所、集会室、娯楽室、音楽室などもあって、学生も快適に利用しやすくなるでしょう。現在、部室の数は他大学に比がない程多く、少しは縮小されることはあっても、まだ先きのことです。

このように計画は着々進んでいますから、もう二、三年もすれば、素晴らしい学園ができあがるでしょう。


各学科ごとに建ち並ぶ工学部校舎

文理改組実施は四十二年度か

編集部　文理学部改組問題が、大分大きく言われていますが、どのようになるのかをお話下さい。

学長　現在のままの文理学部の形では、文、社、自然がまじり、専門学部としても不完全であり、一般教養担当の面でも、一般教養の教育に対する責任がはっきりしない。ことに、厚生補導関係の面で問題が多いのです。それで、文理学部を改組しなければならないというのが、中教審の示唆であり、文部省もその方針であり、大学制度改善の一つの趨勢なのです。つまり、今のままの形では不都合なのです。

全国に、文理学部を有する大学は十四ありました。四十一年度を含めて今までにすでに八大学で文理学部改組が行なわれ、残る六大学も追っかけ改組されねばなりません。

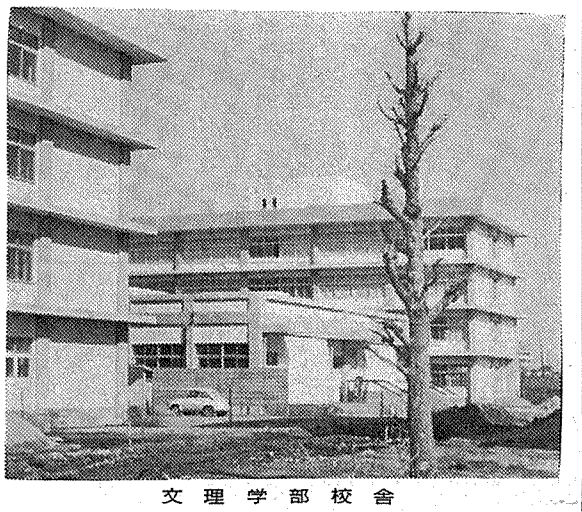
千葉大学の場合、理学部と人文社会学系学部、それに教養部と三つに分ける案になっています。埼玉大では工学部を新設して理工学部としてますが、千葉大にはすでに工学部があるので、理学部として独立させます。

教養部は学部に準ずるもので、東大の教養学部は歴史的な関係などで特殊なのであって、他大学では教養部とするのが文部省の方針です。

教養部は一般教養を担当して、個有専門の学生というものを持っていません、この点で、教養部の教官となる先生方は個人としては何となく格下げのようで、イヤだという気があるわけで、理解できるのですが、大学の形態として、全体の教育を充実させていくためには、一般教養を専任として担当して、責任をもってやってもらうことが必要であり、止むを得ないわけです。身分、待遇には別に他と差はないですし、教官研究費も同様で、自分の研究もできるわけです。今のように、文理学部の教官が一般教養を片手間にやっていたのでは、真に打ちこんだ教育ができません。日本の大学が充実されず、学生も不満であるし学力もつかない、また、精神的な面の指導も不十分で学生の気持が満たされない、などの理由で、教養部の設置はぜひとも必要なわけです。

また、現在のままでは、教官の定員増加は望めないが、文理学部改組の機会に教官定員も大幅に増加させることが可能なのです。

理学部、人文社会学系の学部に分けることは、専門学部になるので特に問題はないわけです。


文理学部校舎

医進課程の充実を計る

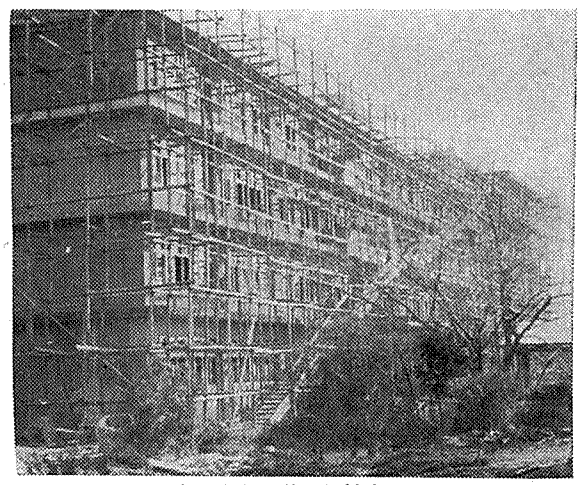
編集部　医進の教育改善は、今後どのような方針で行なわれますか。

学長　医進についての考えは、昔の旧制高校のようなあり方が良いという意見もあり、私自身もそれを考えるのですが、しかし、専門教育との関連も考えに入れると、現在四年間の医学教育課程で履修する科目数は昔以上に増えてきており、内容も高度となっており、規定の四年間にそれらをすべてはめこむことに非常な無理が生じてきています。そこで、医進の課程に専門科目の一部をおろしたら、という意見が出て、真剣に検討されて来ました。

しかし一方、医者としての人間形成、常識豊かな医者の教育はぜひとも必要であるわけで、専門教育側の要求を満たすと、教養の時間がなくなるのです。

そこで、その解決策として、医進には「基礎医学と関連のある基礎教育科目」を加えていくことになって来ています。これにはできるだけ医学部の教官が協力してやっていき、少しでも専門科目の講義の不足分をカバーしていってもらうことにしたいと思います。

また、医進だけの問題でなく、教養部全体への注文ですが、高校の教育内容も近年ずいぶん高くなって来ているわけです。したがって教養部での教育も高校の繰り返しになるようなことは避けて、期間を短縮しても十分な効果が上がる教育方法を研究し、行ってほしいのです。そのようにして、専門教育の時間を増やしていけばいいんじゃないかと思います。


完成を急ぐ薬学部校舎

編集部　一時文系学部が廃止されるのじゃないか、と心配されてましたが、その点は。

学長　これだけ大きな大学に、ことに理科系の多い大学に、その基礎となる理学部がないことは大学の形から言っても非常な片輪となります。また人文社会系学部は是非必要であって学生の急増対策としても重要で、文系が消えてなくなるようなことは絶対にありません。

編集部　改組はいつ頃から行なうことになりますか。

学長　実施時期は、まだはっきり言い切れないが、できれば四十二年度から発足するようにしたいと思います。文理学部の先生方の積極性が出て来ないと円滑に進まないのです。教養部の設置の必要性は認めても自分は教養部教官になりたくない、というので、問題が起きているのですが、しかし、大学としては、教養部が必要なのです。七月にはその設置のための概算要求を文部省に出すことになっていますので、最も早くて四十二年から実施ということになります。

編集部　その際の学生募集形式はどうなりますか。

学長　学生募集方法は今までと変りありません。ただし、社会系の定員がずっと増えると思うので、その募集形式が若干変るかもしれません。

西千葉地区を文化・体育のセンターに

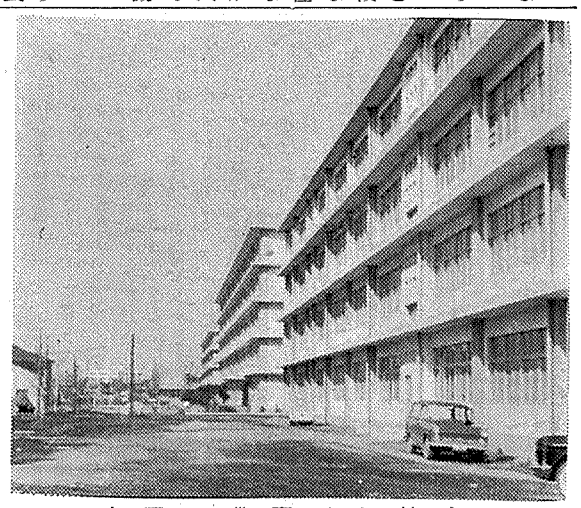
編集部　先生がたびたびおっしゃっておられる大学と県との結びつきということについて、お話し下さい。

学長　これは、私は言うだけでなく実際身をもって努力しているつもりなんですが、地方大学はその地方の教育、文化、産業に貢献しなければならないというのが、第一義的ではないにしても、大学に課せられた責務でもあるわけですし、また大学があるために物心両面において非常に裨益されるわけですから、地元もいろいろと大学に協力してくれているわけです。実際医学部記念講堂の建設、工業短大の建設また大学周囲の舗道整備、今回の体育館等建設のための三億円の寄附など、何かと地元は大学に、快く協力してくれています。大学側も県や市のいろいろの計画には積極的に協力しています。

編集部　具体的にどんなことがあげられるでしょうか。

学長　私自身の関係していることから言えば、県の公害対策研究会に千葉大学長として協力してほしいと言われ、医学部はじめ薬学部や工学部の教授が十名程参加してます。また、文理、教育などからも、県のいろいろの委員会に参加して大いにやってますよ。また、新聞社支局長や県の体育協会の有力者の集りなどで何回も言ってきたことは、西千葉統合計画も進行している折、西千葉地区を文化、体育のセンターにしようではないかと。そして大学と県と一体になり実現させよう。大学には体育の教官もいるしするから、県の方でもいくらか負担してはどうか、ことにヨット、ボートなどは非常に金がかかるので体協に協力を求めることになるのだが、まあこのような、人と人との関係はうまくいってます。私は一昨年日本の大学制度を改善するために欧米の視察に派遣され、その途中ミシガン大学に立寄ったのですが偶然大学間のフットボールの試合があって、それはシーズン最初の大会であった。全州から高等学校鼓笛隊の生徒約一万八千余が集り大学の六万収容のスタンドが、学生はじめ父兄で埋められており、試合の前半戦が終了すると鼓笛隊が行進してグランドを占め大学校歌を大合唱するわけです。非常に壮厳であり感激の坩堝と化し、いかにもミシガン州が「大学を中心にしてミシガン州が」一つになるという感じでした。そういう光景を見て、地方の大学は何かしらことあるごとに地方の中心になり、地方の高校生もミシガン大学に来ることが憧れなのです。千葉大学もこのようになるのが私の理想です。

これには、先ず大学の方が立派になることが必要なわけですね。他の大学がまだ立派に見えるようではね。大学の環境が学園らしく、そこに行ったら崇高な気分に打たれるように。その意味で、医学部の場合でも病院裏の起伏を平坦にして情調のなくなるような、ばかなことはしたくないし醜いの場であり、読書の場であり、また、綺麗な恋を囁ける様な落着いた所にしたいなとと、ロマンティックなことを考えているのですよ。


文理・教育学部校舎

新発売！
ついに わが国でも完成した
V.B1＋V.B6＋V.B12高単位合剤
ヨーロッパで、神経機能回復に賞用されているV.B1・B6・B12の合剤がわが国にも登場しました。
すでに定評あるビオタミンをはじめ、V.B6・B12を高単位に配合した強力な製剤です。
神経系疾患、リウマチ性疾患、無力症、各種貧血の治療に、ユニークな効果をご活用ください。
●神経機能賦活剤
ビタメジン
（1カプセル中：ビオタミン25mg／V.B6 25mg／V.B12 250μg）
包装　500カプセル　1,000カプセル
10セ～31
三共株式会社

耐性　ブトウ球菌感染症に
健保適用
内服用・注射用・新合成ペニシリン
スタフシリン-V
STAPHCILLIN—V（メチルフェニルイソキサゾリルペニシリンナトリウム）
◆内服用・（錠剤）・筋注用
〔文献進呈〕
萬有製薬株式会社　東京都中央区日本橋本町2—7

医進教育 教課内容 専門科目を一部取入れ

カリキュラム改善順次進む

学一、学二も一部改む

一昨年来、カリキュラム委員会は医学部授業のあり方について種々の検討を行ない、改善すべき点を教授会、教務委員会に要望、昨年にひき続き、本年一月にも懇談会を開いた。

こうした学生側の熱意と学校側の前々からの意向との一致で、昨年には教課内容、時間割の一部変更学一と学三との間のバリアーの設置が行なわれた。さらに、四十一年度には、医進二年、学部一年、二年に相当大きな教課内容の変更が行なわれることになった。その主な変更点は次の通りである。

医進二年　今まで医学教養という名称のもとに、医学外語（英語、独語、ラテン語）および医学部教授の自由講義（実際行なわれた例は少ない）があったが語学のみを残し、自由講義を廃し、その代わりとして、前期に発生学総論、組織学総論を学一との合同講義の形式で行ない、後期には放射線生物学、放射線物理学を行なうように改められた。

学部二年　医史学など一部の講義時間数を減らし、その分に後期の一月から、一内、二内の内科臨床講義が、週二時間ずつ新設される。

また、五月は特別時間割が組まれ毎日午後、細菌学の集中実習が行なわれる。

後期代議員会

五大学の共同提案は否決の報告

四十年度後期代議員会は二月一日病院第一講堂で開かれた。議長に河野（学三）、副議長に太田（学二）、書記に藤塚（学二）の各氏を選出、大学祭会計監査の件、医学連大会五大学提案の承認、病院新築によるサッカー場等対策委員会の報告、自治会執行部報告、カリキュラム、インターン各委員会の報告、が議題とされた。

大学祭会計監査は、会計報告未提出の部門があり、未完了の報告があった。

昨年六月の医学連大会での本学・北大・東北大・金沢大・名大の五校の、インターン闘争等の医学連運動方針の修正を求める共同提案について、参加四十八校のうち、本学提案と賛成校は十三校、医学連中執提案の対立提案の賛成校は三十二校、保留三、で本学提案は否決された旨報告があった。サッカー場問題対策委員会は、看護婦寮建設計画がとりやめとなったので解散の要請があり、承認された。

宮本自治会委員長の自治会執行部報告では、部室改善運動、物価問題討論会、昨十二月十五、十六日の全国学生集会への参加等が報告された。

カリキュラム委員会の報告は、この委員会の性格についての疑問が示された。即ち、本委員会の決定権はインターン委員会ほどに強いものでないこと、また、本委員会の要望事項は大学の教務委員会に参考意見として取り上げられるだけで、その決定事項をくつがえすほどの力はないが、学生全体の自覚と意識とがあれば、教務委員会の考える方向と学生の望む方向とは一致できるはずなので、今後さらに教務委員会との連絡を密にし学生の意見を反映させていきたいと報告があった。具体的には、現在昼食会により学生と教官との意志疏通がなされているが、さらにこれを積極的に進めていく一方学生グループ単位に分け、それぞれに顧問教官制（チューター制）を実施したらどうかという考え、また、四十年度学部入学生から実施される学二、学三との間のバリアー問題、医進カリキュラムの変更等については、さらに検討を進めていく旨報告があった。

科学と芸術と宗教

高橋義孝氏講演会開く

昨年十二月十八日（土）午後「科学と芸術と宗教」と題する高橋義孝氏（九州大学独文学教授）の講演が行なわれた。

会場の第一講義室がほぼ満員になる盛況の中で、科学は理性あるい は意識活動に属するものであり、芸術と宗教とは無意識あるいは前意識的活動に属するものであるという見方で、「我々は快楽性原理と現実性原理とによって動かされている」というフロイトの言葉の引用から始り、人間の欲求と科学芸術・宗教との関連から、人間の心のうちには科学と芸術との間に補償関係ないし自己調節機能があって、どちらかが減びてしまうことはあり得ないという結論を、軽妙な面白さを含めて引出した。

この講演会は、去る十一月のゐのはな祭で高橋氏が「男と女」と題して講演会を行なう予定だったものが、高橋氏の都合で中止されていたので、ゐのはな祭実行委員会が再度高橋氏に依頼して実現されたものである。

講演する高橋義孝氏

森恭三氏講演会

新しいアジアの動き

千葉大学樹徳会・禅の会主催のもとに二月二十九日（土）新館第一講義室で朝日新聞論説主幹森恭三氏の講演が、行なわれた。

『新しいアジアの動き』という新聞紙上を毎日賑わしている演題のため、多くの人々の来場が、期待されたが、土曜の午後であることと試験が、間近であったこと、PR不足であったため約五十名の聴講者しかなかった。これは、主催者側の企画と実行に対する配慮が欠けていたものと思われる。

森恭三氏は、資本主義の歴史的背景として宗教を挙げ、EECも資本主義の共同市場という経済的なものよりも政治的・宗教的なものが、背景になっており、真のナショナリズム（自由・平等・博愛）の結集した形である。アジアではそれが部族主義となり、一国で自分の勢力拡充の為に米ソに援助を求め、又米ソも援助の手を差し延べるので種々の問題が生じてくると、実際に多くの国の指導者との会見と現実を直視した鋭い観察力で分析がなされた。また資本主義の発展に伴い、貧富の差が現われその辺からマルクスの考えが生れソ連に入って独特の開花をみるにいたったが、一九五四年に訪問したときとではかなり異っていた。人間を命令で動かせても働かせることは出来ない。働くという字は実に象徴的で〝イ〟は人の意志を表わし、命令により出来る生産には限界がある即ち社会主義社会の欠点は自由のないことであり、資本主義に於ては、福祉がないこと、いうなれば失業する自由があるということなので、結局どちらが勝つということなく、第三の世界ができるであろうと言及された。

氏は自分の経験から、色々なエピソードや、新聞の歴史、組合活動新聞の立場など随所に入れ、一時間余りの講演は、聴衆にかなり興味を抱かせ、「儒教的思想背景を持つ中国はどれからどのようになるのか？」とか「沖縄、千島等の領土の返還の見通しは？」等の鋭い質問もなされた。それに対し氏は外交秘話のような経験なども話され、聴衆に多大の感銘を与えた。

「イ問題」

本学方式全国化へ

十二月全国学生集会を見て

「真実と平和を求める心を、民族の心のうたを、美しい祖国と豊かな生活のため、民族的民主的文化、自主的民主的学問研究、スポーツの花を咲かせ広めよう」という合言葉の下に、全学連をはじめとする十八の学生諸団体の主催で十二月学生集会が開かれました。

アメリカの侵略的ベトナム戦争がますます強化拡大されるにともない、日本は、「日米安全保障条約」の名の下に軍国主義的な方向へ進んでいます。沖縄基地の拡大、アメリカの原潜のあいつぐ寄港、自衛隊の拡大、三矢作戦計画、飛龍作戦計画と軍国化の基盤を築きあげ、その集約点ともいうべき日韓条約（事実上の軍事同盟）をファッショ的方法で強行採決されました。国内的には、空前の不況下に中小企業のあいつぐ倒産、公共料金をはじめ諸物価の値上げが続き、企業の独占集中が著しくなってきました。それに加えて、赤字公債の発行により、この方向に積極的に拍車をかけています。

この為、国民生活はめだって苦しくなり、学生々活も苦しくなっています。学問研究の面でも科学技術基本法にみられるような国家介入が進められようとしています。

この様な情勢の中で、民族的民主的文化、自主的民主的学問研究スポーツの向上発展をスローガンとして約二千名の学生が参加して集会がもたれました。

千葉大の医学部からも、医学系ゼミナールをはじめとして、演劇分科会、新聞分科会、文学分科会など各文化サークルから二十余名の学生が参加しました。

医学系ゼミではインターン問題、医進教育の問題、カリキュラムの問題、医局の問題等について現状報告や改善方策について討論されました。この中で政府の低文教費政策、低医療費政策があきらかにされました。

千葉大学としては、インターン問題について、第一に、多くの点で一致している名古屋大学との連帯を強め、さらに運動の発展をはかり、第二に、他の大学には、千葉の運動方針を理解してもらい、千葉の方針の全国化をはかるという二つの観点で臨みました。

名古屋大との連帯については成果を上げ、他校との話し合いでは多くの理解を得られましたが、まだまだ今後の課題として追求すべきことだと思います。

結び　インターン問題については、予定していった程度の成果を上げました。名古屋をはじめ東北、北海道、信州、新潟などの大学では、医学連の方針に質問を抱きはじめている事を考慮すると、今後の発展が期待できます。

カリキュラム問題については、他校の成果に積極的に学ぶと共に全学連に加盟する多くの大学で明らかにされている、大学の自治、学問、研究の破壊、学問の軍事化低教育費政策の一連の問題を共に考え、共に改善してゆきたいと考えます。

各サークルが全国的な集会に参加したのは初めてでした。討論の内容について種々の批判はありましたが、全国の学生の活動を見ながら自分達のサークル活動を行なうという点で意義がありました。

今後はこの集会で得た成果をもって、学内の諸々の問題や、文化活動、スポーツ活動を発展させていきたいと思います。

（医学部学生自治会　海老原記）

千葉県医師会

破傷風一掃へ動く

千葉県での破傷風発生数、死亡数は全国で常に上位にある。こうした不名誉な記録を排するために、また悲惨なこの病気をなくすためにも、医学部細菌学教室では、学生を含めた破傷風研究班が昨年夏以来、破傷風予防接種の効果を、医学部学生をはじめ多くの人々の協力を得て研究を進め、貴重なデータを発表して、破傷風予防接種の必要性を訴えてきた。一方、県医師会でも、これに呼応して四十一年度から予防接種を大々的に実施することを決定し、県へも働きかけ、学童への予防接種に補助金交付がなされることになった。

実際に予防接種を現場で実施する県医師会では、この問題について次のように述べている。

×　×

千葉県は破傷風の多発地域として古くから有名である。厚生省の統計によっても、その発生数或いは死亡数において、全国の第一位第二位と、常に上位に位するという甚だ不名誉な記録を保持し続けている。しかも実際の発生数は、この統計に現れた数字の二～三倍はあるものと考えられる。

また突然おそってくる、この不幸な疾病の激烈さを、諸君も一度まのあたりにしたら、終生忘れえないであろう。

この破傷風の致死率は日本においては約七五％であるが、千葉県においては、医師が本疾患と関する経験が深く適切な処置がとられているので六一・九％と低い。近年では更に致死率も低下したが、尚五〇％前後は不幸な転帰をとっている。年令別からこの致死率をみると、乳児九〇・六％、幼児九四・七％、児童六三・六％、中学生徒六〇・六％と年令の長ずるに及んで減少するが、六〇才以上では七二・一％と再び上昇する。

このように重篤な疾患であり乍ら土壌中の破傷風菌がどんな傷から体内に侵入してくるか、その原因をみると、極めて単純な釘、竹その他による刺傷とか、転倒してすりむいたとか、何かで切った創とかいう小さな負傷であることが多い。近年交通事故が激増しているので、勿論これに起因したものも相当数を占めている。

更に治療については破傷風抗毒素血清、抗生物質を基礎にし、鎮静、鎮痙、筋弛緩剤、強心剤等を併用、場合によっては気管切開、酸素吸入、人工呼吸など医師の側も非常な努力を強いられるのに対し、患者側も病苦の外に、膨大な医療費負担をおわねばならない。

如何に国民皆保険下であっても、社会保険の家族とか国民健康保険では、一部負担金を患者が支払わなければならないので、不幸な転帰をとった者の家族はもとより、幸いに治癒したものでも、その経済的負担があとをひく例を屢々見聞する。また場合によっては、医師側にそのしわよせがきて、医療費未払いということも、ままある。

破傷風の現況は以上の様に、誠に悲惨なものであるのに、これが法定伝染病でないために、衛生行政の主たる対象からは除外されているので、千葉県医師会は、一月二十八日の理事会にて破傷風一掃運動を展開することを決定した。

その目的は、千葉県下の破傷風患者に訴え、強力に推進する決意である。

（県医師会常任理事　海保記）

健保新採用!!　錠、注、デポー
プリモボラン
— 新強力蛋白同化ホルモン —
SCHERING AG BERLIN
Schering
日独薬品株式会社
千葉営業所(2)5615

春…
組織を強くする
好機です……
40才をすぎて衰えを感じた方…パロチンの補給作戦をはじめてください。
パロチンは骨・関節・筋肉・血管・目・歯・胃・感染に対抗する組織など体の重要組織を強くする。唾液腺ホルモンです。
老化に対抗する——
パロチン錠
一錠中 唾液腺ホルモン5mg含有〈120錠〉
帝国臓器
東京・赤坂

寄稿

明治二十年代の千葉

第一生理学
名誉教授　鈴木正夫

千葉市の戦後の発達はすばらしい。戦前は人口十万に満ちない小市で、その前は全国でも最も小さな、県庁所在地の一として有名だったくらいだが、京葉工業地域開発を軸としてこの十数年異数の発展を続け、人口も三十万を突破して、近く五十万の都市を期待されている。千葉はしかし既往においてこれに似た、あるいはそれをしのぐ発展を短期間に経験したことがあるそれは明治の最初の二十年間においてであった。

千葉市、当時の千葉町の地域は平安時代の末期には、千葉氏の居城の地として大いに栄えたが、室町時代の半ばに千葉氏が城を佐倉に移してからは、全くの一寒村に化して了った。江戸時代の中期以後には江戸街道の宿場町、ないし海路送りの物資集散地として一定の経済力を回復したが、明治維新の廃藩置県に際して、本県特殊の事情により千葉県が置かれて県庁所在地となった。この一小宿場町から県政の中心地となった二十年間には、人口が四千から二万へと五倍増した。

ちょうどこの頃の千葉町の発展の跡と繁盛の状態を記した「千葉繁昌記」という本がある。明治二十四年の発行で雀巣子（本名君塚辰之助）という筆名の著書であるが、全編戯文化した漢文調で、寸鉄人を刺すような警句や辛辣が各項に満ちている。当時急に展開された公人、私人の生活、官庁、学校や事業商店などの業態が、皮肉たっぷりに描写されていると共に、交通や文物などが今から考えるとそんなだったかと感慨深く思い返される点が少くない。

千葉大学医学部の前身としては、それまでの県立千葉医学校が官立の第一高等中学校医学部と改まり、猪鼻山上に、新築が成った直後である。「高等中学校」の項に曰く

同校は猪鼻山上に在り、千葉市中第一等の建物にして眺望の佳なる、得易からざる所なり。海も（而も東京湾）山も（而も富岳まで）船も（而も汽船漁舟）皆一度に網膜に写て愉々快々。この校未だ世に現れざる以前より頗る人望を得て、曳て手数多の勢を示し甲乙を迎へんと欲せば、乙亦之を引かんとせり。吾県の如き五万有余の孔方兄を繰出して華迎したる珍客なれば之を我地の上席に置く、元より当然の理たらん乎。……此校に出入する学士先生は十余名にして、各A字のピンを襟飾となして自得然たり。学生三百余名は皆一中の徽章を帽子に着けて揚々乎たり。……

本校を自地に招こうと東海一府十県が、殊に千葉と名古屋が争ったこと、長尾校長の熱意が効を奏したこと、県会が五万円の建設寄付金を可決したことなどは、当時からの語り草である

「尋常師範学校」の項に曰く

……外観頗る壮大、然れども所謂見掛倒の代物なり。元来水田を埋めて建築したるが故地形堅固ならず、湿気常に多く健康上頗る害ありと。而して衛生学の指針は常に転地改築の四字を示せりと雖ども我県の経済未だ以て此指示に従ひ得ざる乎。……

小学校の形容に「市童村児群ること蟻の如く蜘の如し。咿唔の声常に天に轟けり。而して築造に至ては（五のうち）千葉寒川二校の外観るべきものなし」

といっている。

当時は鉄道未だ通ぜず（鉄道が東京に通じたのは明治三十七年であった）、東京とは馬車、汽船、人力車、和船などの便があった。その記事が非常に面白い。汽船の項に曰く

……乗船賃は並二十五銭にして上等は三十五銭也（馬車は三十五銭）。……馬車は腹中を転覆し腕車は面倒なりとする所の者、多く此汽船内雑居の客となり、煙を残して都の空に赴く。

貫進社という人力車企業の項に曰く

……賃銭は一名金四十八銭其社の車夫は太神楽の兼業にや、㊀の印を附したる饅頭笠を頂けり。虎に鞭て千里の籔を超るの速力なきも、牛に騎て善光寺に詣るの遅々たるに非ざるべし。

また和船の叙する項に曰く

……是等の和船に乗て京浜に往復する者亦尋しとせず。天涯雲なく海上波静なるの日に於ては、一瓶の酒に睡眠を購ひ、未だ醒めざるに速く彼岸に達するを得る、而して其賃を問へば白銅三個を出して釣を得、豈厳ならずや。

「玉突場」の中の形容が面白い

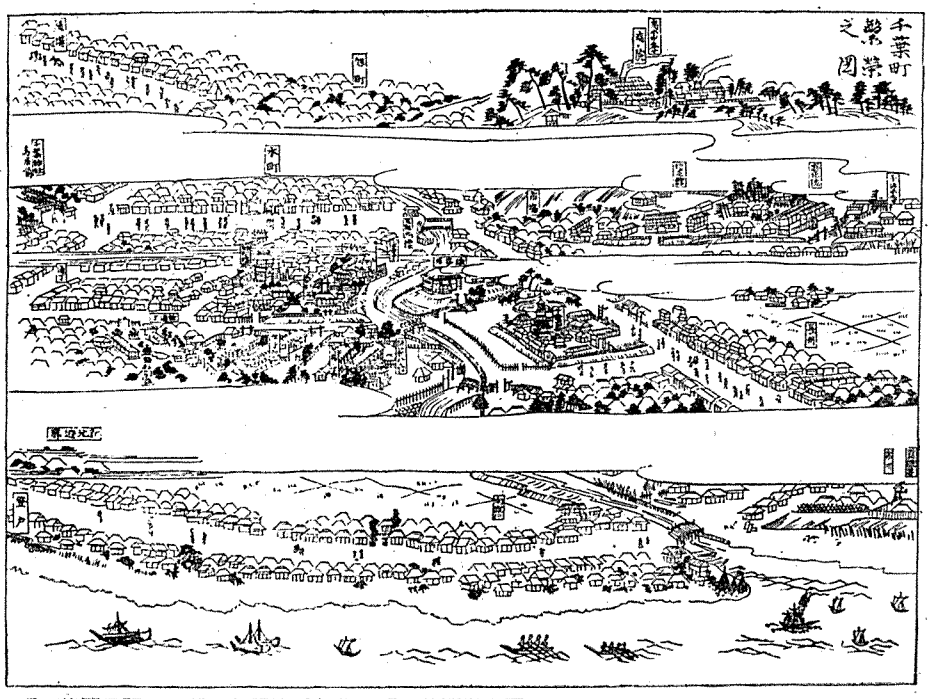
判官殿杆を手にして立たせ玉へば、ドクトル閣下玉を狙て掴へ玉ふ。県官先生椅子に倚て珈琲を啜り玉へば、地方紳士マネラを喫煙して一隅に在まし玉ふ。……

「牛肉店」の叙述に曰く

……冬夜談氷るの時、焼鍋二三、酒と飯、火活して肉煮へ、随て喰ひ随て煮、随て飲み、膚を張り腕を扼し、高談論弁君又僕、是れ書生の最大愉快とする所、此店の最大花主とする所也。

かくの如くして七、八十の項に分けて記載しているが、当時の文物風俗を映してまことに興味がある。ここにはほんの一部を紹介したが、現在行われない漢字の二、三を今のものに改め句読を入れ、余り読み難い送り仮名を送った他は、できるだけ原字原文通りにしておいた。当時の世情の一斑を見て頂ければ幸いである。

（なお本書は千葉県立中央図書館蔵のものさえ遺失されて了ったので、昭和三十九年に千葉市教育委員会の手で、成田図書館の好意により写真複刻の上刊行された）



「千葉繁昌記」に載った明治20年代の「千葉繁栄之図」
上段…右に第1高等中学校医学部とその病院、左に旭町、道場が見られる。
中段…上方右から千葉寺、感化院、信之館、市場、本町、千葉神社　下方右から長州、千葉県庁、議事場、裁判所、師範学校などが見られる。
下段…右から監獄署、寒川、向寒川、登戸が見られる。

東西南北

「東西南北」は、同窓会員の皆様の相互の交流を図るための投稿欄です。詩歌、生活記、旅行記、支部同窓会の様子、クラス会の模様あるいはいろいろのニュース等、どしどしお寄せ下さい。宛先は「千葉市亥鼻町、千葉大学医学部ゐのはな同窓会報学生編集部」今後の発行予定は、五月末、八月末、十一月末、二月初です。今号は投稿が多数あり、八、九、十面にわたり掲載しました。

▽原稿募集△

東京ゐのはな会新年会報告

落合和雄

丙午の新年会を迎え、心新たに一年の計を立てる暇もなく、患者の診察に追い回されている昨今でございます。会員諸君は、さぞ御健勝の事と心からお祝い申し上げます。

さて東京ゐのはな会では、一月二十二日に上野精養軒で新年会を開きましたところ、母校からは谷川学長を始め、滝沢、小林、相磯、川喜田、斉藤、鈴木（次）、三輪御園生、各教授と、鈴木（五）ゐのはな会長も御出席になり、更に丁度学術会議に出席されていた長崎大の安中教授も、御多忙な時間をさいて出席されまして、誠に賑やかに行われました。

会員は約六十名集り、和気靄々の内に、賀詞の交換を行い、鈴木五郎会長は大変御気嫌でゐのはな会の発展を祝福された。谷川学長は多忙なスケジュールの寸暇を、特にこの会の為にさかれて、学内の事特に記念講堂について同窓会の皆様の御協力により、次第に順調に事後処理が進んで来た事を報告され感謝の意を表された。会員の中には大正二年卒の堀内先生を始めとして若い方では昭和二十四年卒の阿部先生外四名、更に三十一年卒の小野清四郎先生等、老いも若きも、心から打解けて、三、三五、五、と、教授方と話し合う事が出来て、なごやかな雰囲気の内に初春の一夜を過ごす事が出来た。東京ゐのはな会の会員は現在約七百四十三名位ですがその内六十名の出席者ではありますが、新年の始めに、お互に元気なお顔を拝見し、賀詞を交わし、親睦を深め得た事は、誠に目出度い事と存じます。全日空の事故、ピストル事件等毎日危険に、さらされているお互いでございます。今年の新年会に集られた方々は勿論、全会員が無事で各分野で御活躍され、また来年の新年会には会員大多数の先生方の出席を得てその元気なお顔を拝見し、盛大な新年会が出来ますよう祈念するものであります。

この新年会は、年中行事にして、会員の親睦を益々深めるようにしたいと存じます。

終りに、公私共に御多忙な、谷川学長、鈴木ゐのはな会々長、三輪教授その他の教授方に御出席願えた事に対して、厚く厚く御礼申し上げます。

昭和四十一年二月十日

【東京ゐのはな会副会長】

東京ゐのはな会新年会風景（於　上野精養軒）

短歌

医学部事務長補佐
竹内幸明

いと古きわが学園の創立に
心くだきし人を偲びぬ
（創立に思う）

わが植えし黒松苗はたくましく
空に向いて銀芽のびたり
（記念樹）

編集部だより

昨年十一月、九十周年記念臨時特集号を発行し、創立九十周年を祝うゐのはな祭がどのように行なわれたかを写真特集いたしました。同窓生の多大な御援助のもとに、学生も教官も学内外の関係者も、大いにこの期間を楽しみながら未曽有の盛大さでゐのはな祭を成功裡のうちに終えることができましたことを同窓会員の皆様に御報告し、同時に御礼申し上げる次第です。また同窓会当局の先生方にも同特集号発行にあたり、いろいろ御面倒おかけ致しましたにもかかわらず、常に好意的にさまざまの御援助をいただけましたことを、この紙面を借りまして、編集部ならびにゐ祭実行委員会より、厚く御礼申し上げます。とともに今後もよろしくお願い申しあげます。

千葉大医90年の歩み

鈴木正夫名誉教授　医海時報に執筆

医学部は、その前身諸学校等の頃よりかぞえて九十年を経過した。この九十年はまた千葉県の生まれ育った年月でもある。この九十年を医学部がどのように歩んだか、本学名誉教授鈴木正夫先生が「医海時報」（金原出版、毎月一、十一、二十一日発行）に、本年年頭より筆をとっておられる。

疲れをとる，肩こりをほぐす，筋肉の痛みをとる
アリナミンは、体内で活性化されて作用するビタミン！効きめが強力です。
治療には　<1日内服基準用量>　100ミリ～150ミリ
神経痛・腰痛・食欲不振・便秘・心臓病・疲れ目・仮性近視・夜尿症に……
★詳しくは医師・薬剤師とご相談下さい
●アリナミン●無臭性アリナミンF　<各>5ミリ錠・25ミリ錠・50ミリ錠
アリナミン®のもう！
A-35
タケダ薬品

東京城南ゐのはな会だより

三輪清三 鈴木次郎 両教授を囲んで

大関仲三

昭和四十一年二月十九日三輪、鈴木（次）両教授を迎え荏原医師会館に於て学術講演会を開催した

肝疾患の種々相　三輪清三教授

腰痛特に椎間板ヘルニアに於て　鈴木次郎教授

三階の大講堂は殆ど満員、聴衆一同両教授の貴重な、有益な講演に感服、我々同窓の面々は、自ら鼻が高くなる。

夕刻より両教授の歓迎会、又三輪教授の学術会議々員当選祝を兼ね、二階和室にて、東京都ゐのはな会より大塚文郎新会長、島田美夫、落合和雄の両副会長の参加を得て、長時間縦横に歓談、大いにメートルをあげた。然し城南という地域は品川区、大田区の広い範囲であり、まだまだこんな事では物足りない。『朋有り遠方より来る』である。この様な楽しい会に出てこない会員の各位よ、兄等は大きなものを失っている。面倒がらず一度御出席下さい。兄等にとの楽しみをお分けする義務を私達は感する。

寄せ書の説明

(1) 大須賀都美次　海軍医務局長軍医中将、大正五年卒、海軍に行かれた後輩は皆閣下に御厄介になっている筈。前大田区医師会長御高令であっても頑張ッたるものである。

(2) 野平哲也　産婦人科の開業に少々待ったを食ったが、無事開院。そのうち忙しくなって悲鳴をあげるであろう。昭和二十三年卒

(3) 鈴木次郎　教授、お酒の方も教授クラスか。

(4) 葛原　輝　昭和三年卒、外科開業。大塚文郎ゐのはな会長と同クラス。「大塚君に会いたくて」と申されていた。

(5) 大倉正二郎　蒲田紅保病院々長、中山外科出身。この病院は本学が後から入って行った事とてまだまだ大変な様子、然し優秀な後輩が現在は沢山来ているから、院長も、立派にやり通す事であろう。我々近くの親戚も皆で応援しましょう。

(6) 安藤俊一　第一外科肺外科を修め、現在結核病院々長、若くて行動力があり、三輪教授の選挙の時は、上野高次君と二人で奔走してくれた。

(7) 生沼金夫　大森の山王で開業。海軍軍医、座談の名手にて当会に欠かせぬ人。

(8) 島田美夫　現都ゐのはな会副会長、いつか大学新聞に投稿していた。理論派、長男が香月さんの所にいる。美夫はとみをと読む

(9) 坂本高明　荏原医師会の闘将。

(10) 石坂　明　蒲田病院整形外科、昭33年卒。若い人が会に出てくれると嬉しい。

(11) 大村忠夫　今産婦人科部長大倉院長の来る迄は一人で淋しい思いもしたらしい。千葉の連中が病院に増え心強いと実感を述べていた。

(12) 落合和雄　昭和18年卒にてまだ若い。然し才腕を認めて皆で都の副会長にした。行動派である氏位の年令層もどんどん出て来るべきである。

(13) 藤代忠敬　法医学、加賀谷先生の弟子、賞助会員である。尤もお子様が千葉大を出て居り御自分も法医で論文を書かれたので、正会員と同じ事である。同窓会に非常に熱心の方にて、いつも必ず出席して下さる。藤代産婦人科病院の院長、今回の選挙にも、三論さんを応援して下さった。

(14) 上野高次　三論内科講師、三論さんは良いお弟子を持ったものである。選挙の時は、お気の毒な位良く働いた。三論内科に選挙学を勉強に行っているのでもあるまいが。

(15) 谷口滋　整形外科現役。鈴木次郎教授御自慢の弟子らしい。まだ独身。席上千葉大学に結婚相談所を設けうとの声あり。「縁結びの神」も一人位居ても邪魔になるまいか。

(16) 小川恭平　昭和22年卒。彼が二高の後輩である事は名簿により初めて知った。あまり沢山御馳走が出るので、隣りの人に千五百円でこんなに沢山頂いてもよいのですかと、恐縮していた由。善人である。

(17) 武藤三男　昭和13年卒、内科医、目下盛業中、この人の人徳にて患者は自然に武藤医院の門を潜って了うらしい。

(18) 早川和夫　昭和19年　眼科医。千葉大学解剖学教室にて目下アルバイト中。野中教授の同クラス。この人程、博士運の悪い人も少ない。早く祝賀会をやろうと時々ライツェンしているが。

(19) 永田順一　小児科医、佐々木哲丸教授の弟子。健康保険が書ききれず。毎月二、三ケ月遅れている。美しい話である。

(20) 益子民次　大正9年の大先輩。名簿には民治とある。民次が本当である。御訂正を願う。眼科盛業中。後継者物色中。「結びの神」の御出馬を待つ。

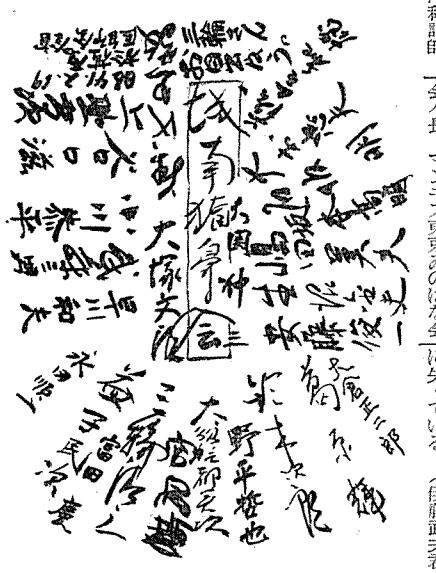
(21) 三輪清三　御当選お目出度う。然し議員たるものは、凡て「常に選挙に在り」との事をお忘れなく。

(22) 宮島哲也　蒲田病院外科、佐藤外科派遣生現役。若い人が出てくれて嬉しい。

(23) 大塚文郎　新東京ゐのはな会々長。マンモス東京ゐのはな会の会長を得て、やおら重い腰をあげた。これからはもう突進あるのみであろう。陸軍の名物男。大佐?。

(24) 大関仲三　万年幹事。志有るも智足らず、という所か。同窓会は皆が寄って一杯やるだけで意義があるのか。くだらぬ。確にそうであろう。然し皆集って楽しく語り合わないで、一体何が持上るというのか。勿体なければ酒などいらない。然しお茶でいいから皆集まって歓談する。この事が同窓会活動のスタートだ。スタートにつかずに一体いつ出発するというのか。皆たびたび会いましょう。そして楽しく語り合いましょう。そっぽを向いたりしないで。

(25) 富田慶　大正9年卒・内科医悠々自適組。旅行狂という所かまれた人はいない。



昭17卒 "白兎会"だより

大村光

太平洋戦争が勃発し、学業が大幅に（半年）短縮された第一回の卒業生として、昭和十七年九月吾々七十七名は玄鼻台の学舎より去った。そして直ちに大部分の兵役合格者の中、海軍入隊者は九月三十日、陸軍入隊者は十月一日に夫々軍務へと服した。祖国防衛の為という大任を自覚する反面、いつ戦死するかもしれないという不安な気持を交えつつ……

昭和廿年八月戦争は終り、吾々クラスよりは計九名の級友が敵弾の為に倒れ護国の鬼と化した。（提哲雄君、高村降次君、川島達雄君、佐藤道太郎君、富士川五郎君、八幡健二君、原田太郎君、内田慎君、菊田次郎君）。尚その他五名の級友を戦病死或は病魔の為に失っている。（伊藤武夫君、池田庄二君、松尾鑿君、吉田正君、山口重行君）吾々前後の三、四年が戦争の犠牲を最も多く受けたクラスではなかったろうか。

戦後の混乱期も漸くに落付きを取り戻した昭和廿五、六年頃よりバラバラになったクラス員の消息も徐々にではあるが判明したしたそして昭和廿八年の一月十五日、消息判明者のみを招集して、卒業後第二回のクラス会を東京新宿のすし屋の二階で開催出来た感激を未だ忘れる事は出来ない。（正確には第一回は昭和廿二年頃千葉で開かれたが、この時は未復員の人達も数名いた。）

爾来一月十五日を毎年吾々クラス会の日と決め、回を重ねる中三年目頃に漸く級友全員の消息を掴むことが出来たのである。吾々クラス員にとっては一月十五日といえば、クラス会の日という事になり、尚その他七月中旬頃には毎年ビールの会と称し、有楽町ニュートーキョーあたりで会合を重ねてきた。尚母校千葉大学とのつながりを深める為、四年毎の閏の年には必ず千葉へ赴き、恩師を交えてのクラス会をする事に決め既に之迄に三回実施している。

卒業廿周年のクラス会（三十八年一月十五日）は熱海へ一泊旅行と足をのばし、実に三十三名という現在クラス員の半数以上の級友が参集した。つもる話に旧交を暖めつつ一夜を過ごし得た事は、クラスの団結をより強固なものとしていくのに大いに役立った。以後旅行も千葉での会同様に四年目毎にやろうという事となり、本年一月十五日再び熱海に会し得た。連休で快晴に恵まれたその日、次々に集ってくる級友の顔も昔日の童顔に返り皆生き生きとしていた。

併し悲しいニュースも無いではない。昨年の暮れ吾々クラスより栗原玄達君と伊藤英夫君の二人を病魔の為に失ったのだ。先ず全員で御二人の冥福を祈り、暫しの黙祷を捧げたのであった。

尚附記として、既に十年程前（昭和卅年）、吾々が供養し得なかった戦没者及び戦時中の病死者の冥福を祈る為（その遺族の所在を確かめるのは非常な困難であったが）クラス員より集めたささやかなカンパを基とし、僅かながらの御供物を遺族の方々にお送り得た事はいささかの吾々のなぐさめと共に、喜びとするところであった。

その他、昨年クラス会で討議された家族を含めてのアルバム作製の件は、千葉在住者高瀬潤一君、内田成和君、数馬欣一君の御努力により見事完成、本年のクラス会に全員に手渡す事が出来た。

兎に角先にも述べた通り、十余年にわたり一月十五日と七月の年二回連綿としてクラス会を続けていく事が出来たのは吾等の誇りでもあり、今後も恐らく続けられていく事であろう。

（註）吾等の入学したのは兎年であって、皇紀二五九九年、九九は「一〇〇－一」で白なり。白兎は大国主命の故事以来医道に極めて密接な関係あり。よってクラス名を"白兎会"となす。

（内田成和君命名）

昭和四十一年一月十八日

クラス家庭アルバム報告記

一昨年恩師を招待し千葉京成ホテルにてクラス会を催した際、小林教授から先生同期の家庭アルバムを作製したとの話を聞き、われわれもアルバムを作ろうとの話がもちあがり、千葉在住のものがアルバム委員を引受け、一年がかりで家庭アルバムを完成した。

私どものクラスは卒業後二十三年を経、同期に七九名卒業し、十七名が死去して、生存者六二名、うち開業四〇名、官公立勤務者二二名である。年令は四八才前後で多くの者は頭髪が薄れ、白髪も目立ち、人生第二期抵抗年令に達し子供は二度進学適令期にあり、一喜一憂の体である。

第二世の数は、遺児を含め男子七一名、女子六一名、計一三二名（うち五児の親一名、四児七名、三児二八名、二児二〇名、一児七名、子なし五名、不明七名）であり、平均概ね二児であるから人口増減には影響がない。

医者の卵は現在のところ本学三名（内田、大友、高瀬の三君）、東大一名（浦部君）、東医大一名（宝積君）の五名である。昨年祖父第一号（田島君）が誕生した。

息女は美人ぞろいであって、同窓との縁組を切望しています。御縁談御希望の同窓の方は御一報次第アルバムを持参し、御相談に応じます。

アルバム編集に関しては、家庭アルバムネガ一人三枚以内として募集し、四三名の者がネガを送ってくれ、それに卒業アルバムの複写を加えて、総枚数一二一枚をアルバムに編集し、一部五千円を徴収した。学生時代の若きと現在の各家庭構成をアルバムで眺めつつ尽きぬ友愛のきずなを感じているまだクラス家庭アルバムをお作りになっていない同窓の方に、少し手間はかかりますが、是非お作りになるようお奨めします。

（数馬記）

33名の出席者をみた白兎会

近畿だより

宮軒安太郎

戦後二回目の医薬合同の同窓会を十一月二十一日天王寺駅スティションスピル大阪都ホテルに於て開催、先ず幹事より会務を報告同窓会本部より持つ事は有意義である。今回は薬学部の大先輩である阪大総長赤堀四郎君の文化勲章授賞の喜びをこめて開いたのであり、我々の同窓教授の堂野前先生よりこの偉大なる学者を持ち得たことは我々同窓の名誉でもある。我々は心より同君の授賞を祝福して杯を重ねた。且し連絡が悪くて同君に出席してもらえなかった事は、誠に残念であった。

また参天堂社長の三田博士は薬学部を代表されて来年はもっと多数この会を益んにしたい旨述べられた。

当日は元千葉医大を述べる大先輩の大貫、中川、浜田の三長老も大いに元気なところを見せられ、また関西医大の大沢教授もめずらしく御出席、一同を喜ばせ、久しぶりに千葉の古巣へ帰った様になる。大阪は製薬の盛んな部であり医薬合同の同窓会を持つ事は有意義である。今回は薬学部より今度この会を更に盛大にしたい旨述べ日没後に散会

当日の出席者左の通り

医学部　堂野前教授、大貫藤四郎、中川小四郎、浜田常次郎、大津教授、巽数男、松原恒三、河井豊之助、荏司康、堤太夫、中島紀一、猪橋半六、宮軒安太郎

薬学部　三田尚亮、望月祥一郎、浜中保吉、西宗清

下痢！便秘！

【適応症】
腸内異状醗酵による急性・慢性カタル・下痢、便秘、鼓腸、緑便、細菌性下痢、感冒性下痢、小乳幼児の発育促進、小児ストロフルス、蕁麻疹、湿疹、栄養障害、消化不良、抗生物質療法化学療法後の整腸

活性ビフィズス菌製剤

ラックビー

化学療法後の整腸

日研化学株式会社

本社　東京都中央区日本橋1丁目5番地
電話 東京（272）8741（代）
医薬品営業部　東京都中央区築地3－10

排便の生理機構の研究から新しいタイプの便秘治療剤が開発されました！

健保適用

●文献・供試品送呈

■組成及び作用
本剤はレシチン　炭酸複合坐剤で腸内に於て有効量の炭酸ガスを徐々に発生せしめ、蠕動を高める事によって確実に生理的な排便作用を発揮する。

■本剤の特長
●使用が簡便且つ清潔で排便作用の発現が速く医師からも患者からも希望された時間内に起る。
●不快感・副作用・習慣性の心配がなく、同一時刻の連用により、排便反射を正常にし、薬剤なしに自然排便を見るに至る。
●下剤の使用による排便と異り、便が正常である。

■包装　12坐剤・60坐剤

病床者・妊産婦・高令者にも安心して使用できる

レシカルボン坐剤

発売元　ゼリア化学株式会社　東京都中央区日本橋小舟町2－3
輸入元・ゼリア株式会社　製造元・西独・アーテンシュタットレデカー社

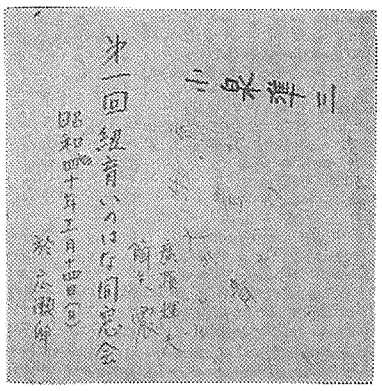
アメリカだより

ニューヨーク支部発足す

―降矢震―

ゐのはな同窓会員御一同様。

在ニューヨーク市会員一同より皆様に新年の御挨拶を申し上げます。私共はさる十一月十四日、リヴァディルの広瀬さんの御宅で、第一回ゐのはな同窓会を開きました。集りましたのは、広瀬輝夫（昭和二三年卒、元二外科）、牧豊（二四年卒、精神科）、小泉輩三（三十卒、精神科）、熊坂順彦（三十年卒、元慶大精神科）、韋文鑑（三四年卒）、小林充尚（三四年卒、産婦人科）、小松崎篤（三四年卒、東大耳鼻科）、矢野柾太（三四年卒、二外科）、矢野靖子（旧性松原、現矢野夫人、三七年卒、小児科）の諸氏に、丁度視察旅行中の大井清氏（三一年卒、厚生省）と、降矢震（二二年卒、生化学）計十一名でありました。当地には大先輩の大谷先生が、マウントサイナイに居られ、病理の長老として活躍して居られますが、御高令のために御招き出来なかったのは大変残念でした。



当地の会員の過半数は一、二年の短期滞在で、御互の間の一貫した連絡は、今迄ありませんでした。数カ月前、町で小林さんとばったり出会いましたが、同氏にとって私がニューヨークで会った初めての同窓生であったとの事ですし、韋、小松崎両氏は同級生でしかも今、同じ病院の同じ科に居りながら御互の存在を全く知らなかったというような状態でありました。この秋に一外科、窪田さんがローマからの帰りに立ちよられました時丁度セントルイスから来られた飯田御夫妻（夫人旧木曽、共に三四年卒）と牧さん矢野御夫妻に顔を合せさせるべく、大いにかうべきでありました。その時当地の者が一緒に顔を合そうではないかという話が出ました。その後牧さんが具体的に話しをすすめ、実質的には広瀬さん御夫妻の御骨折で今回の盛大な会となったわけであります。

広瀬さんは昭和二十八年渡米されシカゴ、フィラデルフィアで研鑽をつまれ、昭和二十三年以来当地に定住されて、外科の領域で、研究に、臨床に大活躍されて居ります。最近は、自宅にもオフィスを開かれて御盛業であります。

先ず、一同自己紹介、記念撮影の後、広瀬夫人の心づくしの御馳走に舌づつみをうちながら時の過ぎるのを忘れて歓談致しました。我々の御互いの連絡のために、一貫した組織が必要でありますので全員一致して広瀬さんに会長の仕事を御願い致しました所、御多忙中にも拘らず、同氏は快く御引き受け下さいました。今後は、会員の動静は、すべてここに報告する事となります。

貴重な材料は勿論、大変な御手数をかけて御もてなし下さいました広瀬夫人に一同心から御礼申し上げ、今後の広瀬氏の御発展を御祈りしつつ、亦の再会を約して六時過ぎに散会致しました。

以上会員の皆様の御健康と御発展を御祈りしつつ御報告申し上げる次第であります。【昭22卒】

古河内貞一氏叙勲さる

―加藤普佐次郎―

在米中

古河内貞一君は、千葉医学専門学校時代に、教授筒井八百珠先生の許にあって、ワッセルマン反応の検査主任とし、又六〇六号注射の研究の中心として大いに努力した人である。そして筒井先生が岡山医学専門学校の校長として赴任せらるるや、同先生に従って岡山に赴任した人である。処が筒井先生の計にあい、やむを得ず北米に渡りメキシコ人が主に住む国境方面に於て開業試験を受けた。幸にそれに合格して開業医になった。

その手腕の卓越せることと、愚者に親切なことがその地の人々に賞われて、開業医として大発展をなし、その土地の名医となり、四十年来の地盤と名声、技能共に卓絶せるものとなって今日に及んだ。

同君は又日本自衛隊の留学生に愛情を施し、多大な貢献をなした。

それが米国官民の知る処となり、今回の叙勲に及んだのである。エールリッヒ博士の片腕として、因に六〇六号研究の人秦佐八郎氏が働いた。その秦氏が岡山時代の井上善次郎先生の指導を受けた。その関係で秦氏は千葉の井上先生とも往復は絶えなかった。六〇六号の研究についても、その供試品を井上先生の許に送られた。井上先生は直に筒井先生に渡された。筒井先生はドイツ語の非常に達者な人で六〇六号研究の一切を読み破り、古河内君はじめ助手の人々と共に六〇六号注射の研究の大業を遂げられた。

ワッセルマン反応に関しても、先天梅毒の肝臓エキスから、モルモットの心臓エキスに変った時にこれ又人に先んじて実行せられた。

それやこれやで古河内氏は筒井先生にとっては、なくてはならん人となり、岡山に赴任せられたのである。それが遂に筒井先生の病気のために、志を失うこととなり北米に住地を求めることとなった。

住所は

Dr. S. Furugochi 3101
Douglas El Paso.
Texas. U.S.A.

学内との結びつきを

―四金会―

同窓会会員の一員としてはなはだ無責任なことであるが、四金会とはどういうものであるかこれまでは全く考えてみようともせず、勿論出席したこともなく、まるで他人事のように考えていたものであった。また定例の幹事会で、はかってみるとその誰もが四金会の何たるかを知らない。同窓会の中のお年寄の会ではなかろうかというのが大方の意見であって、数名のうちわづか一名のみがかつて出席したことがあるという無責任きわまりないことであった。四金会開催通知の発送先をしらべてみると、なんと学内と関東近県の有志のみではないか、しかも300名前後に案内して出席は僅かに30名足らずという低調さである。もっとも学内にいる者さえがその由来を知らず、他人事のように考えていたのだから当然のことといえばそれまでのことであろうが。記録をたどってみるとこの数年間は四金会即同窓会の感があり、四月或は五月の四金会は同窓会総会から移行するならわしであった。したがって四金会での決議は恰も同窓会での決議であるかの如く考えられたのは無理もないことであった。ここにおいて当然のことながら、常任理事会で四金会の性格を明らかにしようということになり、鈴木会長、花岡名誉会長、小林常任理事を煩わしたが、かって同窓会館が新設された折、今後は同窓会員が集まって話し合える機会を作りたいということで隔月の第四金曜日をその日とし、四金会と名付けたとの由、全くの会員相互の親睦を目的とした集会がその起りの様であった。従ってこの会は定期的に開催することが大切であり、このことが会員全体に衆知されておればその日に母校を訪れる者は同窓の誰かに会えるという希望を託し得るのである。

さて、当初の高邁なる理想あるいは深遠なる目的などが年月の経過とともに忘れ去られて後代にいたり、その存続すらも危ぶまれることがあるのは世によく見るところである。幸にして四金会は低調とはいえ、よく今日迄その趣旨を体して継続され、また二時期には同窓会総会の役割をも果すなど、ゐのはな同窓会の特徴ある集会としての面目を保ち得て来たのである。このように考えてみると、四金会が低調である所以は私どものような後代の会員の不心得によるものと指摘されそうである。四金会は決してお年寄りのみの会ではない。私どもは今改めて同窓会の定期的な親睦の集会であることを確認し、事情のゆるす限り出席してこれまでの責の一端を果すべきものと考えるのである。これ四金会の隆盛は同窓会発展への道と心得るからである。会運営については従来は新任教授祝賀会とか○○教授帰朝歓迎会とかいう催しが四金会の案内状を賑わしていたわけである。勿論これも親睦を標榜する以上大切な催しものである。しかしもっと学内との有機的なつながりをもつために今後は毎回一、二の教室が当番となり、教室のスタッフ紹介を中心として、関係領域の話題を提供したらどうだろうかということになり、すでに2月25日に開催された今年当初の四金会では新設講座である麻酔科学教室から麻酔科の現状と今後の方針についての話題が提供され、麻酔科についての認識を新にしたのであった。

最後に今年次回以後の四金会開催予定を記し、会員各位の御出席を希うものである。

次回　4月22日（金）
　　6月24日（金）
　　8月26日（金）
（暑気払い）
10月28日（金）
12月23日（金）（年末につき繰上げて忘年会の予定）
（文責昭24卒木村康）

母校の発展を期し ひとことと物申す

小泉博人

母校の発展を期し、ひとことと物申す。

当日頃、物を深く考える余裕のなを読むと、いろいろとその点、気やかましく報道されているが、彼いくらい忙がしさに追われているを配ってきているようであるが等の勇気たるや、大いにかうべき身にとって正月はのんびりした気分になれる時である、正月ともなまだまだ足りない、出張病院からである。又インターン問題にしるとあちらこちらに出かけて過ぎ医師の要請を受けても、なかなかしかりである。これらはつもりつし日の思い出にふけり大いに語り心よい返事をあたえられないなどもった不満の爆発ではあるまいかと云う話をチョイチョイ耳にする私自身大学にも席をおき、その空気を知っているが、臨床においては、その感じは特に強いものがある。上の者には絶対服従と云う、ような感を深くするのは、私のみではないではなかろうか

合う機会も多いが、やはり、過ぎ去りし日の母校の思い出は何とも云えない、そこで、さて母校はと改めて考えて見ると、その愛校心の薄いのにはあきれるくらいである、原因はどこにあるか、私立大学はいざ知らず、国立大学においては、特にその感が深い、或いは千葉だけであろうか。要は千葉の大学人が先輩を大切にしないからではないだろうか。近頃同窓会報新聞などで、無給医局員の問題がめるべきである。最近阪大がめざる、週刊誌にもとり上げられているが、やはり千葉と同様、東大においても同じ問題をかかえている。正月早々苦言を提しお耳ざわりの点はお許し願いたい、要は母校の発展を願うからである

（昭和三十二年卒）

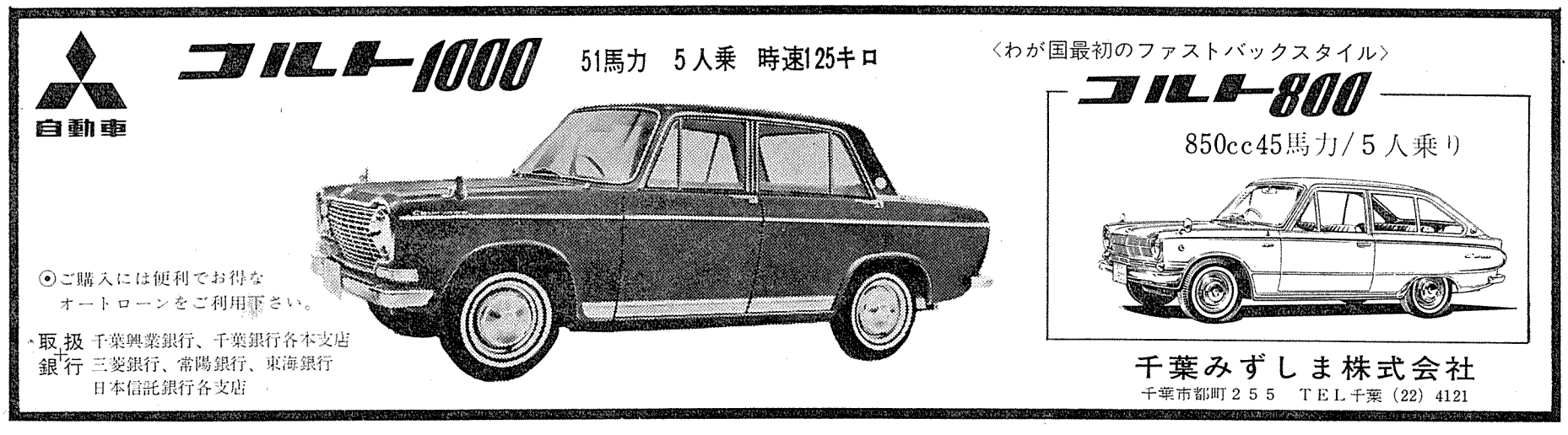
大学を唯一の権威あるものとして諂らい、大学人も思いあがっている。医学界の伝統ある封建性に根ざしているのかも知れない。最近年功序列式の古い考え方はあらためるべきである。最近阪大がめざす大学は、国立大学においては、特にその感が深い、或いは千葉だけであろうか。要は千葉の大学人が先輩を大切にしないからではないだろうか。近頃同窓会報新聞などで、無給医局員の問題が

学を去った者が、再び母校にもどれない点である、大学を一歩出たら、もう研究を忘れてしまう彼等にも反省してもらわなければならないが、その希望のない慣習が気持の上にも作用しているとしたらと考えると、もっともなことである。

千葉において、最近立派な講堂が建設され、お自出たいかぎりであるが、その寄附集めの時だけ先輩先輩とよってたかってもありがたいと云う話をチョイチョイ耳にする。

市川重平氏に勲四等旭日小綬章

石上小平氏は縣医事功労章

昨年秋の叙勲において、本同窓会員である市川重平博士（大正元年卒）が、勲四等旭日小綬章を授けられた。市川氏は現在千葉県学校保健会長をされ公衆衛生に業績があり、また戦前は東京税務監督局の所得審査委員の職にあり、税務関係にも業績があったもの。（写真上）

また千葉県医師会理事石上小平博士（大十三卒）は、千葉県知事より千葉県医事功労章を受けた。小学校保健会、医師会、保険審査などでの業績があったもの。（写真下）